

教 授 要 綱

令和7年 3 月26日記入

科目	化 学	講師名	友添 俊裕
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験30 年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士教本 化学 鶴房 繁和 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	物質の構造や性質、及び別の物質との間に起きる変化や反応について基礎知識を学ぶ。臨床の場において歯科衛生士は様々な薬品、歯科材料を取り扱うため化学の基礎知識をいかしてそれらに対応できるよう物質の本質を理解させる講義を行う。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	イントロダクション 原子・分子 物質の分類とその構造	教科書P2～P6を予・復習
2	原子の構造 元素の周期表、重要元素の特徴	教科書P7～P15を予・復習
3	化学結合 イオン結合、共有結合、配位結合、金属結合	教科書P16～P24を予・復習
4	気体 気体の法則、ボイル・シャルルの法則、空気の性質	教科書P26～P49を予・復習
5	溶液・濃度 濃度の表し方、濃度の計算、コロイド溶液	教科書P42～P62を予・復習
6	化学反応 化学反応式の表し方、活性化エネルギー、化学平衡	教科書P88～P96を予・復習
7	酸・塩基 酸・塩基の性質、水素イオン濃度、中和反応	教科書P67～P77を予・復習
8	酸化・還元 酸化数、酸化剤・還元剤 酸化還元反応式	教科書P80～P83を予・復習
9	金属 各種金属の特性、遷移元素と典型元素、イオン化傾向	教科書P84～P86を予・復習
10	無機化合物 代表的な無機化合物の性質 ホウ素、ケイ素、ヒ素の特性	配布プリントで復習
11	有機化学 有機化合物の基礎、命名法、異性体	教科書P98～P110を予・復習
12	有機化合物 代表的な有機化合物と性質、高分子化合物	教科書P111～P128を予・復習
13	水・ミネラル・糖質 水の構造と性質、人体の主要無機元素、糖質の構造と性質	教科書P130～P141を予・復習
14	脂質・タンパク質・核酸 人体を構成する脂質・タンパク質・核酸の構造と性質	教科書P143～P164を予・復習
15	環境学概論 地球環境に及ぼす化学物質の影響	配布プリントで復習

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	生化学	講師名	友添 俊裕
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験30年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	人体の構造と機能2 栄養と代謝 高橋 信博 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	生命現象を科学的・分子的レベルで理解する。生体を構成する物質や栄養素の代謝を理解する。歯と口腔に関して、歯牙・歯周組織の構造や唾液の機能を理解する。ペリクル・歯垢・歯石等の歯の堆積物の性質を説明し、う蝕、歯周疾患との関係を考察する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	イントロダクション.人体の構成要素.細胞の役割.人体における水	教科書P6～P13
2	人体構成成分の構造と種類	P13～P23
3	人体における化学反応	P24～p28
4	糖質、脂質、タンパク質の代謝	P29～P31
5	脂質の代謝とエネルギーの生成、タンパク質とアミノ酸の代謝糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関連 遺伝子とタンパク質合成	P37～P45
6	遺伝子の発現とタンパク質の合成 人体における恒常性の維持	P46～P52
7	歯と歯周組織の生化学	P54～P61
8	歯 歯の組成 歯の無機成分 歯の有機成分	P61～P67
9	硬組織の生化学 血清カルシウムの恒常性とその調節機構 骨形成と石灰化のメカニズム	P68～P74
10	骨吸収と骨リモデリング 歯の脱灰と再石灰化	P74～P81
11	唾液の生化学. 唾液の組成と機能.	p82～P87
12	プラークの生化学 プラークとバイオフィルム	P88～P96
13	う蝕の発生に影響する因子	P96～p106
14	フッ化物の応用 プラークによる歯周病発生機構 プラークや舌苔による口臭発生機構 プラークと歯石	p107～P118
15	総復習	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	口腔機能学（生化学）	講師名	友添 俊裕
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験30年
単位数	4時間（2回）	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士国試対策集2024年対応 歯科衛生士国試対策研究会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A（100～90）B（89～80）C（79～70）D（69～60）E（59点以下）		
授業方針 到達目標	近々の国家試験過去問題を中心に、解法のポイントをプリントを使って解説する。		

授業計画

回	授業進度予定（講義内容）	
1	近々三年の国試問題を含めた重要過去問を解かせながら、解説する。	過去問を解答するための資料配布
2	近々三年の国試問題を含めた重要過去問を解かせながら、解説する。	過去問を解答するための資料配布
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	情報処理論	講師名	原 由久
実施時期	3学年後期	実務経験	PC関連業務経験22年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書		参考図書	なし
評価方法	自作のパワーポイントにより評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	学内のインフラを使い、基本的なソフトの使用法及びインターネットによる情報の検索法を学習する。今まで学習してきた専門知識を同級生の前でプレゼンテーションをし、お互いの内容を採点する。(この時PowerPointを使用する)		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	コンピュータ基礎(Word使用法)	前半
2	コンピュータ基礎(Word使用法)	後半
3	コンピュータ基礎(Excel使用法)	前半
4	コンピュータ基礎(Excel使用法)	後半
5	コンピュータ基礎(PowePoint操作中級)	前半
6	コンピュータ基礎(PowePoint操作中級)	後半
7	コンピュータ基礎(PowePoint操作中級)	前半
8	コンピュータ基礎(PowePoint操作中級)	後半
9	プレゼンテーション作成	
10	プレゼンテーション発表会	

教授要綱

令和7年3月日記入

科目	心理学	講師名	都能 美智代
実施時期	1学年後期	実務経験	関連業務経験18年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	心理学 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験(80%)及び授業態度(20%)により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	心理学の各領域の代表的な理論と知見を紹介し、また日常生活の身近な題材を活用して、人間行動の仕組みに関する認識を深めながら心理学の基礎を習得する。人はどのようなことを考え、どのような行動をするのか、心理学の基礎的な理論を教科書や資料を用いて解説する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	オリエンテーション 「見る・聞く・感じるころ」知覚についての基礎知識・特徴について理解する	
2	「学ぶ。覚えるころ」学習・記憶についての基礎知識・特徴について理解する	
3	「やる気・喜怒哀楽のころ」動機付け・欲求・感情についての基礎知識・特徴について理解する	
4	「その人らしさ・かしこさの心理」パーソナリティ・知能についての基礎知識・特徴について理解する	
5	「発達のころ」発達についての基礎知識・特徴について理解する	
6	「発達のころ」発達についての基礎知識・特徴について理解する	
7	「人と集うのころ」集団・リーダーシップについての基礎知識・特徴について理解する	
8	「健康なころ」メンタルヘルスについての基礎知識・特徴について理解する	
9	「カウンセリングのころ」カウンセリングマインドについての基礎知識・特徴について理解する	
10	「思いを伝え合うころ」コミュニケーションスキルについての基礎知識・特徴について理解する	

教 授 要 綱

令和7年 3 月28 日記入

科目	歯科英会話	講師名	ブラウン パトリシア
実施時期	1学年後期	実務経験	英会話教室等8年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	歯科英語 歯科医院での実用英会話 土田和範、廣島英雄、上沖章宏、Stephen M. Wolfe, 笛吹理絵 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科診療室における様々な場面を想定した会話文をベースに練習問題、単語、リーディングそしてリスニング練習を通じて教育目標に到達できるよう幅広い授業を展開していく		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	Self-Introduction, Syllabus Explanation	
2	Unit 1 HANDLING CALLS AT RECEPTION AT RECEPTION PATIENT	Unit 2 SERVICE Unit 3 CARING FOR THE p.6, 65 p.8, 65 p.9, 66
3	Unit 4 CONSULTATION (Pregnancy & Breastfeeding) p. 10, 66	
4	Unit 5 IN THE X-RAY ROOM Unit 6 PULPECTOMY	p, 13 p. 14, 68
5	Unit 7 DENTAL EXTRACTION AND NEXT APPOINTMENT AT RECEPTION	Unit 8 PAYMENT p. 17, 68 p. 19, 69
6	Unit 9 GUM DISEASE EXAMINATION	Unit 10 PERIDONTAL p. 21, 70 p. 23, 70
7	Unit 11 TOOTHBRUSHING INSTRUCTIONS p. 26, 71	
8	Unit 12 SCALING	Unit 13 MAINTENANCE p. 29, 71 p. 31, 72
9	Unit 14 EXPLANATIONS ON DENTAL CAVITIES Unit 15 FLUORIDE APPLICATION	p. 33, 73 p. 34, 73
10	Unit 16 DENTAL TREATMENT FOR CHILDREN p. 36, 74	
11	Unit 17 DENTAL COMPOSITE RESTORATION Unit 18 INFECTED ROOT CANAL TREATMENT	p. 39, 75 p. 41, 75
12	Unit 19 CROWN RESTORATION (A-E) p. 43, 75	
13	Unit 20 BRIDGE Unit 21 FALSE TEETH	p. 47, 76 p. 49, 76
14	Unit 22 DENTAL IMPLANT TREATMENT Unit 28 QUESTIONS ON COVID-19	p. 50, 76 p. 62, 80
15	END-OF-TERM EXAM	

教 授 要 綱

令和7年 3 月4日記入

科目	医療接遇	講師名	佐藤 日登美
実施時期	3学年前期	実務経験	放送局、 歯科関係等42年
単位数	16時間(8回)	授業形態	講義
教科書	でんたるこみゆにーけしょん 山田隆文 学健書院	参考図書	なし
評価方法	出席、宿題、授業態度、テスト結果など		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	教科書に添いながらも、歯科医院に勤務している人間として、実践、エピソードを交え、歯科医院ならではの患者接遇の取得を目標。、課題の宿題をとおり、接遇に興味を持ってもらう。社会人としての常識も教授したい。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・コミュニケーションとは…コミュニケーションの成り立ち、方法など ・危機管理について ・ミニテスト実施	4/10 (木)
2	・指導コンサルテーション、カウンセリングなど具体例を交えて説明 ・医療面接とは何か、役割りなどについて	4/10 (木)
3	・医療面接の準備、注意点(身だしなみ、小物準備、話し方、アイコンタクト) ・笑顔について	4/17 (木)
4	・傾聴…基本的な質問方法 聞く、聴く、訊くの差について ・質問法…開いた質問、閉じた質問 ・15秒、自己紹介(全員)	5/8 (木)
5	・医療面接における好ましい態度、好ましくない態度 ・医療面接を妨げる因子	5/22(木)
6	・応用編…共感、同情、同感、ロールプレイングを交えて・共感のトレーニング、 感情とは何か ・宿題発表、提出	5/22(木)
7	・クレームについて…どのような場面で起きるのか？対処方法について ・宿題発表、提出	5/29(木)
8	・就職面接についてのマナー(チェックシートあり) ・まとめ、質問、手紙の書きかたについても勉強。	5/29(木)
9		
10		

教授要綱

令和7年 3 月23日記入

科目	手話	講師名	二宗 幸子
実施時期	3学年後期	実務経験	手話通訳・講師歴11年
単位数	16 時間 (8回)	授業形態	講義
教科書	手話を学ぼう・手話で話そう 小中栄一 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	授業態度・出席数およびテスト・レポート提出により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	聴覚障害者の言語である手話の基礎を学び、臨床の場で聴覚に障害がある方とのコミュニケーションが取れるようにする。 障害に対する理解を深め、ノーマライゼーションの理念を学ぶ。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	挨拶・自己紹介 聴覚障害者とは？ 手話を学ぶにあたって 挨拶の手話・指文字の表現	テキストP96～ DVD
2	自己紹介をしよう (名前・家族・趣味などの手話表現) 指文字しりとり	テキストP8～13 DVD、グループ学習
3	伝えあってみよう (物の形や動き、表情の具体的表現) 数字を使って会話をしよう (月日・時間・値段などの手話表現)	テキストP15～ プリント
4	聴覚障害者と会話するときの注意や要点 コミュニケーションのポイントと具体例 聴覚障害の基礎知識、ろうあ者の生活について 手話の基礎知識	テキストP88～ プリント
5	聴覚に障害がある方の講演と交流	ゲスト講師を招く レポート課題
6	医療に関する手話単語 会話練習	テキストP34 35 DVD、プリント
7	医療現場でのコミュニケーションについて学習しよう (受付、問診の手話表現) ロールプレイ、会話練習 テスト	テキスト グループ学習、テスト
8	会話練習まとめ 手話スピーチ発表	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	組織学	講師名	野村 英壽
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験6年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 前田 健康 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	教科書をベースにしたプリントを用いて授業を行います。組織学の基本をおさえていきます。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	細胞分裂、減数分裂について①	
2	細胞分裂、減数分裂について②	
3	精子と卵子の発生について①	
4	細胞の構造と機能①	
5	細胞の構造と機能②	
6	精子と卵子の発生について②	
7	受精と着床、胚葉の形成について①	
8	細胞の一生	
9	受精と着床、胚葉の形成について②	
10	胎児の成長と発育について①	
11	胎児の成長と発育について②	
12	細胞の生理機能	
13	神経組織の役割	
14	上皮組織・結合組織・筋組織の役割	
15	軟骨組織・骨組織の役割	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	組織学	講師名	野村 英壽
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験6年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 前田 健康 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	教科書をベースにしたプリントを用いて授業を行います。組織学の基本をおさえていきます。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	組織学①
2	組織学②
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月24日記入

科目	衛生学	講師名	加賀美 茜紀子
実施時期	2学年前期	実務経験	歯科医師経験1年
単位数	20時間(10単位)	授業形態	講義
教科書	最新 保健生態学 金子芳洋 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準: A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	衛生学・公衆衛生学の概要を教え、公衆衛生活動の基礎的な知識について理解させることを目的とする		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	ア 総論 (ア)衛生及び公衆衛生の定義(イ)健康 (ウ)健康を守る手段
2	イ 人口 (ア)人口動態統計(イ)生命表(ウ)優生学
3	ウ 環境衛生 (ア)定義 (イ)環境に対する生体の反応(ウ)温熱環境 (エ)空気 (オ)水 (カ)騒音 (キ)放射線 (ク)し尿処理 (ケ)塵埃(コ)暖房と冷房 (サ)衣服 (シ)気候 (ス)公害
4	エ 疫学 (ア)疫学の定義 (イ)疫病の発生要因 (ウ)疫学調査の方法論 (エ)感染症の疫学
5	オ 国民栄養と食品衛生 (ア)国民栄養 (イ)食品衛生(食品添加物を含む)
6	カ 母子保健
7	キ 学校保健
8	ク 成人及び老人保健
9	ケ 地域保健 (ア)地域社会の概念 (イ)地域保健活動の組織 (ウ)地域保健事業
10	コ 産業保健 (ア)意義(イ)産業保健活動の内容 (ウ)労働環境と職業性疾患 サ 精神衛生

教 授 要 綱

令和7年 3 月24 日記入

科目	口腔機能学(衛生学)	講師名	加賀美 茜紀子
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験1年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新 保健生態学 金子芳洋 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	衛生学・公衆衛生学の概要を教え、公衆衛生活動の基礎的な知識について理解させることを目的とする。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	これまでの振り返りをする
2	これまでの振り返りをする
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月7日記入

科目	生理学	講師名	鶴崎政志
実施時期	1学年前期	実務経験	医師経験41年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・生理学 前田 健康 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	【GIO】人体の機能を学び、患者の状態を正しく理解し、治療の効果がどのようにして発揮されるのかについて理解できるようになる。 【概要】人の健康はホメオスタシスにより保たれ、この「乱れ」は疾病を招く。本科目を通じて人体の生命維持のメカニズムに於ける各器官の働きについて学び、より良い健康な生活を維持する為には何が大切かを理解する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・生理学とは？ ・体の仕組み:器官系・ホメオスタシス・細胞の構造と機能 細胞の電気現象:静止電位と活動電位	
2	・骨の役割とは？ ・骨の構造と機能、体の中の主な骨の種類と名称 ・関節の構造と種類	
3	・筋組織とは？ ・骨格筋の構造と収縮メカニズム ・関節運動のメカニズムと体の中の主な骨格筋の部位と名称	
4	・消化器の役割とは？-1 ・消化器系の構造 ・消化と吸収のメカニズム1(口腔～胃)	
5	・消化器の役割とは？-2 ・消化と吸収のメカニズム2(小腸～大腸) ・消化器系実質臓器の役割	
6	・循環器の役割とは？ ・循環器の構成と主な構造 ・血液の構成と機能 ・心電図の基礎	
7	・生体防御とは？ ・非特異性生体防御 ・特異的生体防御と炎症、アレルギー反応	
8	・神経系の役割とは？ ・神経系の構成と主な役割(脳の機能局在と反射)	
9	・呼吸とは？ ・呼吸器の構成と換気運動 ・呼吸の役割	
10	・泌尿器の役割とは？ ・腎臓と尿路の主な構造と機能 ・排尿と排尿反射	
11	・エネルギー代謝とは？ ・エネルギー代謝の概要 ・体温調節(発熱とうつ熱)	
12	・内分泌調節とは？-1 ・人体の内分泌臓器と分泌されるホルモンの種類 ・主なホルモンの作用と分泌調節1	
13	(・内分泌調節とは？) ・主なホルモンの作用と分泌調節2	
14	・感覚の役割とは？ ・感覚の一般的性質 ・特殊感覚器の構造と機能	
15	・生殖とは？ ・男女の生殖器の主な構造と遺伝子 ・女性の性周期と内分泌	

教授要綱

令和7年 3 月 7日記入

科目	口腔機能学(生理学)	講師名	鶴崎政志
実施時期	3学年後期	実務経験	医師経験41年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・生理学 前田 健康 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	【GIO】人体の機能を学び、患者の状態を正しく理解し、治療の効果がどのようにして発揮されるのかについて理解できる様になる。 【概要】人の健康はホメオスタシスにより保たれ、この「乱れ」は疾病を招く。本科目を通じて人体の生命維持のメカニズムに於ける各器官の働きについて学び、より良い健康な生活を維持するためには何が大切かを理解する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・過去に出題された国家試験問題(生理学分野)を踏まえた生理学の要点とその解説－1	
2	・過去に出題された国家試験問題(生理学分野)を踏まえた生理学の要点とその解説－2	
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	口腔組織学	講師名	永江 和佳
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験7年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	最新 歯・口腔の構造と機能【口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学】 前田 健康 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	解剖学、口腔解剖学、組織発生学及び臨床科目全般と密に連携する分野であり、基礎的な理解及び習得が必要である。国家試験対策としてより密に、歯科衛生として業務に従事する上でも必要な知識を習得できるよう授業を進めていく。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	エナメル質
2	エナメル質
3	象牙質・歯髄
4	象牙質・歯髄
5	セメント質・歯根膜
6	セメント質・歯根膜
7	歯槽骨・歯肉
8	歯槽骨・歯肉
9	歯の発生
10	歯の発生
11	顔面の発生①
12	顔面の発生①
13	顔面の発生②
14	顔面の発生②
15	総合、復習、質問、テスト対策

教 授 要 綱

令和7年2月日記入

科目	口腔組織学	講師名	永江 和佳
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験7年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新 歯・口腔の構造と機能【口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学】 前田 健康 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	過去の国家試験問題を中心とした総復習		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	総合、復習、質問、国家試験対策
2	総合、復習、質問、国家試験対策
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教 授 要 綱

令和7年 3 月31 日記入

科目	口腔解剖学	講師名	坂井 桜子
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験1年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	歯・口腔の構造と機能＜口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学＞ 天野 修 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士として必要な口腔周囲の骨・筋・神経・血管等の解剖学の知識を習得する		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	口腔とは(口腔前庭:口唇と頬、歯肉について理解する)	
2	固有口腔とは(口峽、舌、口腔底について理解する)	
3	口腔における消化器官とは(大唾液腺・小唾液腺について理解する)	
4	口腔を構成する骨とは1(頭蓋骨;上下・前後面、上下顎骨について理解する)	
5	口腔を構成する骨とは2(舌骨・口蓋骨について理解する)	
6	顔面筋、咀嚼筋とは(表情筋、舌筋、咀嚼筋群について理解する)	
7	顎関節とは(顎関節を構成する骨と筋肉、靱帯について理解する)	
8	脈管系とは(動脈系・静脈系、リンパ系について理解する)	
9	神経系とは(脳神経の概要、口腔周囲の神経について理解する)	
10	歯の形態とは(歯牙の機能や形態について理解する)	
11	永久歯とは(それぞれの形態的特徴を学び理解する)	
12	乳歯とは(それぞれの形態学的特徴を学び理解する)	
13	特色ある歯の形態(特色のある歯牙の形態を理解する)	
14	歯列と咬合とは(歯列や歯列弓、咬合について学び理解する)	
15	14回の授業のまとめ、小テスト等の実施	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 31日記入

科目	口腔機能学(口腔解剖学)	講師名	坂井桜子
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験1年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	歯・口腔の構造と機能＜口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学＞ 天野 修 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	口腔解剖学の習得と習熟		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	口腔機能としての解剖学総論・総括
2	歯科衛生士国家試験対策(小テスト)
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月13日記入

科目	口腔生理学	講師名	江口直文
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験18年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本口腔生理学 山田好秋 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	正常な口腔機能の理解は歯科衛生に関わる種々の学問の基盤となる。口腔機能の中でも唾液・味覚・嚥下・咀嚼などの器官レベルの働きの仕組みについて学ぶ。生理とは身体の種々の働きの仕組みのことであり、その学びは暗記ではなく理解することである。講義中は意識を集中して理解することを目標としてほしい。そのために講義の前後に小テストを行う。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	オリエンテーション① 歯科という仕事	
2	3章 歯と口腔の感覚	
3	4章 味覚と嗅覚①	
4	5章 味覚と嗅覚②	
5	4章 味覚と嗅覚③	
6	5章 咬合と咀嚼・吸啜①	
7	5章 咬合と咀嚼・吸啜②	
8	5章 咬合と咀嚼・吸啜③	
9	6章 嚥下と嘔吐①	
10	6章 嚥下と嘔吐②	
11	6章 嚥下と嘔吐③	
12	7章 発声	
13	8章 唾液①	
14	8章 唾液②	
15	定期試験対策授業	

教授要綱

令和7年3月13日記入

科目	口腔機能管理 (口腔生理学)	講師名	江口直文
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験18年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本口腔生理学 山田好秋 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	近年の国家試験における出題傾向を分析し、口腔生理学関連の国家試験過去問題の演習と解説を実施する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	口腔生理学関連の国家試験過去問題の演習と解説	
2	口腔生理学関連の国家試験過去問題の演習と解説	
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月31 日記入

科目	生物学	講師名	錦織 拓馬
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験9年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生学シリーズ 生物学 川合進二郎 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士は生命科学の知識なくして、人間の体の成り立ち、仕組み、働きなどを理解することがより困難になっている。そこで生命とは何か、地球上の生命は如何にして誕生したのかを理解したうえで、生命を作る細胞の成り立ちと活動、生命が連続するメカニズム、そして生命が環境の変化に合わせて生活する仕組みについて認識を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	生 命 地球上の生命の誕生について述べるができる	教科書 P2-P11
2	細胞の構造 生物学の重要概念の一つである「細胞」を説明できる	教科書 P16-P34
3	細胞の働き 生命をつくる細胞の成り立ちと活動を列挙できる	教科書 P36-P40
4	組織と器官 細胞の集合体が組織・器官であることを系統立てる	教科書 P40-P47
5	生 殖 生命が連続する仕組みについて説明できる	教科書 P50-P53
6	メンデル遺伝 遺伝学の基礎を現実の問題として解釈できる	教科書 P55-P59
7	分子遺伝 遺伝子の本体DNAやRNAの働きについて列挙できる	教科書 P60-P67
8	発生・老化 発生の仕組みと老化のメカニズムを述べるができる	教科書 P69-P72
9	神 経 外部刺激を受容し反応する系を系統立てる	教科書 P74-P83
10	代 謝 細胞内外でおこる化学反応を総括できる	配布資料
11	ホルモン 細胞から器官間の情報伝達の仕組みを列挙できる	教科書 P84-P91
12	生体防御 生命が持つ防御機構を説明できる	教科書 P92-P95
13	動物の行動 環境変化に応じて動物が生活する仕組みを解釈できる	教科書 P97-P98
14	生態学 現生生物と自然環境との関係を列挙できる	配布資料
15	進 化 生命誕生以来の生物の進化について説明できる	教科書 P100-P102

教授要綱

令和7年 3 月 31日記入

科目	病理学	講師名	錦織 拓馬
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験9年
単位数	16時間(8回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学 仙波伊知郎・高田隆ほか 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価 再試験では、平常評価も加味。		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な口腔疾患を含む全身の疾患に広く共通する基礎医学とくに疾病の原因、発生機構、経過および転帰などを病理学総論(Ⅰ編)で理論的に理解する。 ここで学んだ学習内容は、口腔病理学(Ⅱ編)、臨床科目(とくに口腔外科学)に繋がっていく。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	I 編 1章 病理学序論と病因論 1)病理学で学ぶことの大まかな見通しを立てることができる。 2)疾患の内因、外因の種類を理解する。	教科書のp2-7
2	2章 遺伝性疾患と奇形 1)遺伝、遺伝性疾患、奇形を理解する。	p8-13
3	3章 循環障害 1)循環障害について理解する。	p14-22
4	4章 代謝障害と退行性病変 1)細胞傷害(変性と物質代謝障害、萎縮、細胞死)について理解する。	p23-33
5	5章 増殖と修復 1)肥大と増生(過形成)、化生、再生と修復、創傷治癒、異物処理について理解する。	p34-42
6	6章 炎症と免疫応答異常 1)炎症について理解する。 2)免疫応答異常について理解する。	p43-52 p52-59
7	7章 腫瘍 1)腫瘍の発生、腫瘍の種類と性質、腫瘍の診断について理解する。	p60-68
8	7章 腫瘍 2)腫瘍の発生、腫瘍の種類と性質、腫瘍の診断について理解する。	p60-68
9		
10		

教授要綱

令和7年3月日記入

科目	口腔機能学（病理学）	講師名	錦織 拓馬
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験9年
単位数	4時間（2回）	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学 仙波伊知郎・高田隆ほか 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国家試験の対策授業であること、しかも限られた時間など制約が大きい中での総括的な授業であることを念頭に置きながら、社会環境、歯科界に対する社会的ニーズの変動などにより、内容や傾向が変動していく国家試験に柔軟に対応しながら、各年度ごとに学習項目の重み付けを明示しながら、必要な学習項目をレビューする。		

授業計画

回	授業進度予定（講義内容）	
1	病理学全般について全体的な振り返りを行う。とくに歯科衛生士の業務と直接関連するⅡ編 口腔病理学（各論）の内容との連携を意識した。他の臨床系科目（とくに口腔外科）と境界問題の増加にも注意を向け、対応力を増強する。	学生個人の到達度、得意・不得意領域には当然ながらバラツキがあるので、個別の質問にも柔軟に対応する。
2	過去の国家試験、複数回の模擬全国試験の内容をベースに、国家試験で教科書の中の、どの部分に重点を置いて国試対策の学習を行うべきか、具体的な方向性を示す。	
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月16日記入

科目	病理学 (口腔病理学)	講師名	岩鍋 将太郎
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験16年
単位数	16時間(8回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士学シリーズ 病理学・口腔病理学 仙波伊知郎・高田隆ほか 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科領域に発生する疾患は、社会の一般認識と比べ、広がりがあるかに大きい。同時に、医科学の進歩に伴い、疾患の解明のレベルも深まってきている。 歯科衛生士として必要な範囲(広がりと深さ)で、これらの歯科疾患を紹介する。歯学の基礎系科目の1つであるが、近年の国家試験は基礎系科目といえ、現場との繋がりを重視している。臨床系科目の講義および実習で、講義内容を思い出していただけるような方向性を重視する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	第1章 歯の発育異常 大きさ・形・数・構造・色・萌出・位置・咬合の異常 (小児歯科学や矯正歯科学と関連の深い内容を含む) 第2章 歯の損傷と着色・付着物 機械的損傷・化学的損傷・プラーク・歯石・歯の着色 (予防歯科学と関連の深い内容を含む)
2	第3章 う蝕 疫学・病因・臨床的特徴と分類・病理組織学的特徴・予防 ※病理学独自の内容である病理組織学的特徴(エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕)および臨床との関わりの深い項目を重点的に ※衛生士の業務と直結する内容を多く含む。
3	第4章 象牙質・歯髄複合体の病態 知覚過敏症・歯髄充血・歯髄炎・退行性病変・進行性病変・創傷治癒
4	第5章 歯周組織の病態 原因と病理発生・分類 ※各段階の根尖性歯周炎の病態とう蝕から歯髄炎を介して、根尖性歯周炎へ至る病態の流れを重点的に説明する。
5	第5章 歯周組織の病態 概念と分類・疫学・病因・歯肉炎・歯周炎・エプーリス ※衛生士の業務と直結する内容を多く含む。
6	第6章 口腔粘膜の病変 多彩な口腔粘膜疾患について理解する。とくに口腔カンジダ症、口腔扁平苔癬、天疱瘡について強調する。 ※6章以降の内容は近年国家試験での出題率が上がってきています。
7	第7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 第8章 口腔癌 口腔の嚢胞、歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、口腔癌/前癌病変・
8	第9章～第12章 第9章 顎骨の病変 第10章 唾液腺の病変 第11章 口腔領域の奇形 第12章 口腔組織の加齢変化 とくに加齢変化は、今後社会的ニーズがさらに高まっていく領域と考えられる。

教授要綱

令和7年 3 月26 日記入

科目	微生物学	講師名	宗重 隆寛
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験19年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	微生物学 木村 重信 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	口腔内常在菌が全身疾患との関わりが解明され、口腔ケアの重要性が高まってきている。そこで本講義では、感染のプロセスと宿主の免疫力を重点的に講義し、歯科衛生士としての職務に活用できる内容となるよう交誼する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	微生物学の歴史・微生物分類・観察法(グラム染色)	
2	微生物学の歴史・微生物分類・観察法(グラム染色)	
3	細菌の形体による分類。細菌の増殖と代謝。	
4	細菌の形体による分類。細菌の増殖と代謝。	
5	感染と免疫1:感染序論。	
6	感染と免疫1:感染序論。	
7	感染と免疫2:感染の成立から発症までのプロセス。	
8	感染と免疫2:感染の成立から発症までのプロセス。	
9	感染と免疫3:抗原抗体反応。	
10	感染と免疫3:抗原抗体反応。	
11	感染と免疫4:アレルギー反応、ワクチン。滅菌・消毒	
12	感染と免疫4:アレルギー反応、ワクチン。滅菌・消毒	
13	口腔感染症:う蝕と歯周組織炎	
14	口腔感染症:う蝕と歯周組織炎	
15	口腔感染症:ウイルス感染症	

教 授 要 綱

令和7年 3 月26日記入

科目	口腔機能学 (微生物学)	講師名	宗重 隆寛
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験19年
単位数	8時間(4回)	授業形態	講義
教科書	第2版 微生物学 梅木俊夫 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	卒業を間際に控えた学生に、日常歯科臨床で患者説明に必要な知識を整理することを目的とし、具体例を提示しながら講義をする。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	感染序論
2	実践院内感染予防対策
3	口腔疾患を科学する
4	口腔感染症を科学する
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	消毒学	講師名	若杉 紘人
実施時期	3学年前期	実務経験	歯科医師経験15年
単位数	16時間(8回)	授業形態	講義
教科書	歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄 ICHG研究会 編 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士としての歯科診療室における感染予防対策の徹底。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	感染予防対策の基本 患者の感染リスクについて	
2	ユニバーサルプレコーション 手洗いについて	
3	術者側の感染予防対策 手袋、マスク、ゴーグルの使用について	
4	歯科診療室における感染予防対策 滅菌、消毒について	
5	消毒剤による消毒法 消毒剤の副作用、毒性、使用上の注意について	
6	器具、器械の滅菌、消毒 洗浄の実際について	
7	口腔内の消毒 口腔内の常在細菌叢、 ウイルスについての従事者の感染予防対策、 廃棄物の処理について	
8	ウイルスの感染による疾病 エイズ、肝炎について	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	消毒学	講師名	若杉 紘人
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験15年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄 ICHG研究会 編 医歯	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科診療室における感染予防対策を過去の国家試験問題を参考に知識の再確認を行う。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	感染予防に関する過去の国家試験及び模擬試験の中から特に重要なポイントを解説する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	医療倫理学	講師名	森川秀典
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験16年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 笠原幸子 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準: A(100～90) B(89～80) C(79～70) D(69～60) E(59点以下)		
授業方針 到達目標	倫理学とは何をする学問かを教え、歯科医療を行うにあたって必要となる倫理を教える。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	歯科衛生士に必要な医療倫理 歯科衛生士としての心構え
2	インフォームド・コンセント I
3	インフォームド・コンセント II
4	インフォームド・コンセント総括及びQアンドA
5	行動科学とは・・・(患者及び付き添い者への対応)
6	医療現場におけるコミュニケーション(患者、付き添い、スタッフ等)
7	トラブル時の対応→患者、スタッフ、付き添い者等
8	トラブル時の対応と対策
9	トラブル時の公共機関への連絡
10	総括

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	保存修復学	講師名	永尾 史徳
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験22年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯の項組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 寺下 正道 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	保存修復学の概要を理解し、それに伴う歯科衛生士の役割を習得する		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	保存修復学の総論	スライド 配布資料
2	器具・器材および診査方法	スライド 配布資料
3	窩洞と修復法Ⅰ・概論	スライド 配布資料
4	修復法Ⅱ・成形修復(コンポジットレジン)	スライド 配布資料
5	修復法Ⅲ・成形修復(GICとアマルガム)	スライド 配布資料
6	修復法Ⅳ・インレー総論	スライド 配布資料
7	修復法Ⅴ・メタルインレー	スライド 配布資料
8	修復法Ⅵ・セラミックインレーとポーセレンインレー	スライド 配布資料
9	合着用セメントの種類と特徴	スライド 配布資料
10	ラミネートベニア修復とホワイトニング	スライド 配布資料

教 授 要 綱

令和7年 3 月31 日記入

科目	歯科診療補助総論(保存修復学)	講師名	永尾 史徳
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験22年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	歯の項組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 寺下 正道 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	保存修復学の総復習ならびに国家試験対策		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	国家試験と卒業試験の過去問演習と解説	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月6日記入

科目	口腔衛生学	講師名	松尾 忠行
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験32年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第4版 荒川浩久 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯と口腔の健康を保持増進する役目を担う、歯科衛生士として必要な「地域口腔保健活動」について習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	地域歯科保健活動の基礎知識(A.地域口腔保健活動の意義、B.地域における「健康」の考え方の変遷、C.口腔保健活動の目標)
2	地域歯科保健活動の基礎知識(D.対象と活動分野、E.ライフステージ別の歯科口腔保健の概要、F.口腔保健教育)
3	地域歯科保健活動の基礎知識(G.歯・口腔の健康診査と事後措置、H.地域特性の把握と地域口腔保健活動の進め方、I.歯科衛生士の役割)
4	地域歯科保健活動(A.地域口腔保健のあゆみ、B.市町村と都道府県の歯科保健業務、C.8020運動)
5	地域歯科保健活動(D.国民健康づくり対策、E.口腔保健を推進するための目標・計画)
6	母子歯科保健(A.母子歯科保健の意義、B.妊産婦・乳幼児の歯科健康診査と保健指導)
7	母子歯科保健(C.1歳6か月児歯科健康診査と保健指導、D.3歳児歯科健康診査と保健指導)
8	学校歯科保健(A.学校保健、B.学校保健の領域)
9	学校歯科保健(C.歯・口腔の保健教育と保健指導、D.歯・口腔の健康診断と事後措置、E.歯科衛生士の役割)
10	産業歯科保健(職域口腔保健)(A.産業保健の概念、B.職業性歯科疾患)
11	産業歯科保健(職域口腔保健)(C.産業保健活動・産業歯科保健活動、D.職域での口腔保健管理)
12	成人・高齢者・要介護者・障害者歯科保健(A.成人・高齢者の歯科保健に関連する法律等に基づく保健事業)
13	成人・高齢者・要介護者・障害者歯科保健(B.要介護者・障害者への歯科保健、C.歯科衛生士の役割)
14	災害時の歯科保健(A.大規模災害時の保健医療対策、B.被災地での歯科保健活動)
15	国際歯科保健(A.国際協力と関連機関、B.世界の口腔保健の現状、C.開発途上国への歯科保健医療協力、D.国際保健目標)

教授要綱

令和7年3月6日記入

科目	(口腔機能学) 口腔衛生学	講師名	松尾 忠行
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験32年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第4版 荒川浩久 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	過去の国家試験問題を中心とした「口腔衛生学」に関する総復習		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	国家試験対策講義Ⅰ	
2	国家試験対策講義Ⅱ	
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月13 日記入

科目	歯科衛生統計	講師名	徳永 淳也
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験30年
単位数	20 時間 (10 回)	授業形態	講義
教科書	保健情報統計学 佐々木好幸 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	口腔保健活動の効果的、効率的な推進のためには、歯科疾患実態調査をはじめとして、これまでに蓄積された各種統計資料や歯科関連統計データに習熟し、統計学的な洞察力や判断力を養うことが重要である。本講義では、各種統計資料の見方や調査データの捉え方を学びつつ、歯科疾患の疫学的特徴や評価法、初等統計学的なデータ解析手法について理解し、客観的問題把握力と分析力の修得が目標である。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	保健情報と保健統計 1.保健統計とは 2.統計的方法の性質	
2	保健情報と疫学 1.疫学とは 2.疫学の考え方と疫学研究デザイン 3.疫学データの数量化と歯科疾患の疫学的特性	
3	歯科疾患の指数(1) 1.歯科疾患の数量化 2.齲蝕の診断(検出)基準と指数	
4	歯科疾患の指数(2) 3.歯周疾患に関する指標および表現方法 4.口腔清掃状態に関する指標 5.歯のフッ素症に関する指標	
5	保健情報の分析手順 1.歯科保健調査 2.調査計画の立案 3.調査票の設計 4.質問紙調査の進め方 5.歯科保健における各種統計調査	電卓を持参すること
6	保健統計の方法 1.データの種類 2.データの分類(度数分布表、ヒストグラムの作成) 3.標本データの集め方 4.データの代表値(平均値と標準偏差) 5.数値データの関連	電卓を持参すること
7	保健情報の分析演習 調査データの分析(1) 統計処理の実際 独立性の検定 クロス集計とカイニ乗検定	電卓を持参すること
8	保健情報の分析演習 調査データの分析(2) 統計処理の実際 平均値の差の検定	電卓を持参すること
9	保健情報の分析演習 調査データの分析(3) 統計処理の実際 連続変数間の関連、相関分析	電卓を持参すること
10	保健情報の分析演習 調査データの分析(4) 統計処理の実際 連続変数間の関連、回帰分析	電卓を持参すること

教授要綱

令和7年 3 月 13日記入

科目	口腔機能学 (歯科衛生統計)	講師名	徳永 淳也
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験30年
単位数	4 時間(2 回)	授業形態	講義
教科書	保健情報統計学 佐々木好幸 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生統計学の履修内容について再確認し、当該分野から出題されている国家試験問題を参考に知識の再整理を行い、理解をさらに深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	当該分野から出題されている国試問題や模試問題を用いて、歯科衛生統計の履修内容について総復習を行う。特に、各種統計調査、疫学研究デザインと標本抽出法、歯科疾患の数量化、齲蝕・歯周病の検出基準と各種指数等について知識の再確認をはかる。	
2	前の授業で解答した問題について解説し、教科書や関連図書を用いて各自が知識の再確認を行うことを通じて、国家試験レベルの問題に習熟する。	
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月27日記入

科目	公衆衛生学	講師名	劉 中憲
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験33年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第4版 荒川浩久 他 学建書院 学生版 だれにでもできる 小さな努力で大きな効果 第3版	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	公衆歯科衛生の概要を学習することにより、公衆歯科衛生活動の基礎的な知識について理解する。特に歯科衛生士に期待されている予防活動について理解を深める。 ・歯・口腔の発育変化と機能を説明できる。 ・歯・口腔の環境を説明できる。 ・口腔清掃の基礎とブラッシング法や歯磨剤を説明できる。 ・う蝕の基礎と予防法、指標を説明できる。 ・歯周疾患の基礎と予防法、指標を説明できる。 ・その他の歯科疾患の基礎と予防法、指標を説明できる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	総説 (1)口腔衛生学の意義 (2)口腔と健康 (3)歯・口腔の発育変化
2	(1)口腔環境 (2)歯・口腔の不潔
3	口腔清掃 (1)プラークコントロール(各種清掃法) (2)口腔清掃用具
4	(1)歯磨剤(組成と配合目的) (2)ブラッシング方法
5	う蝕活動性試験
6	歯とフッ化物 (1)フッ化物の応用 (2)フッ化物の分布・毒性
7	フッ化物とう蝕予防
8	う蝕予防 (1)う蝕の基礎知識 (2)予防方法
9	歯周疾患の予防 (1)基礎知識(有病状況・分類・メカニズム)
10	歯周疾患の予防方法 (一次予防・二次予防・三次予防)
11	不正咬合 (1)不正咬合の種類・影響 (2)不正咬合の原因と予防
12	口臭の予防 (1)口臭の分類 (2)口臭の原因物質 (3)口臭の予防
13	フッ化物によるう蝕の予防の総論 1)フッ化物のう蝕予防メカニズム 2)ライフステージに応じたフッ化物の応用方法
14	前期講義の総合的な復習
15	前期試験の傾向と対策

教 授 要 綱

令和7年 3 月27日記入

科目	口腔機能学 (公衆衛生学)	講師名	劉 中憲
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験33 年
単位数	6時間(3回)	授業形態	講義
教科書	口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第4版 荒川浩久 他 学建書院 学生版 だれにでもできる 小さな努力で大きな効果 第3版	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	公衆衛生学の履修内容について再確認し、国家試験問題を参考に理解を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	国家試験レベルの問題に習熟する
2	国家試験レベルの問題に習熟する
3	国家試験レベルの問題に習熟する
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月26日記入

科目	衛生行政	講師名	劉 中憲
実施時期	2学年後期	実務経験	歯科医師経験33年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士と法律・制度 第2版 眞木 吉信 他 医歯薬出版会社 学生版 だれにでもできる 小さな努力で大きな効果 第3版	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	医療や保健活動が社会からの要請に基づいて行われていることを認識し、歯科衛生士として歯科医療や歯科保健指導(口腔ケア)に積極的に取り組む姿勢を培い、幅広く地域社会を対象とした「みんなの健康生活の向上」を可能にするPublic Health Mindをもった歯科衛生士の養成を目標とする。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	歯科衛生士法について	
2	医療に関する法規	
3	歯科医師法、歯科医師の業務	
4	医療の動向 (国民の健康と傷病の状況、医療施設の現状) (医療関係者の現状、国家統計の概要)	
5	社会保障 (社会保障の定義、社会保障の内容、現行の社会保障)	
6	医療保障 (医療保障の概要、医療保険のしくみ、医療保険の実際)	
7	日本の歯科医療制度	
8	医療に関する法規 衛生や保健に関する法規	
9	まとめ1. 衛生学・公衆衛生学の重要性について習得し、具体的に説明できる。 復習内容 衛生学・公衆衛生学の重要性について説明できる講義内容	
10	まとめ2	

教授要綱

令和7年3月26日記入

科目	口腔機能学 (衛生行政)	講師名	劉 中憲
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験33年
単位数	6時間(3回)	授業形態	講義
教科書	第2版 衛生行政・社会福祉 全国歯科衛生士教育協議会 編 医歯薬出版 最新)保健生態学全国歯科衛生士教育協議会(監):最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」第2 版, 医歯薬出版 学生版 だれにでもできる 小さな努力で大きな効果 第3版	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価(教科書、その他、パワーポイントによる講義)		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	近年、歯科衛生士の業務は歯科診療所のみならず地域社会での貢献が求められている。地域住民の歯 科保健の確立を支援するために本科目の履修に励んでほしい。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	国家試験レベルの問題に習熟する。
2	国家試験レベルの問題に習熟する。
3	国家試験レベルの問題に習熟する。
4	
5	
6	
7	
8	

教 授 要 綱

令和7年 3 月20日記入

科目	介護概論	講師名	倉光聡美
実施時期	3学年後期	実務経験	医療法人勤務6年 医療・福祉コンサルティング7年
単位数	16時間(8回)	授業形態	講義
教科書	介護概論・基本介護技術 千葉 典子 共栄出版	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・介護を必要とする人を、一人の生活する人として捉え、病気や障害などのために起こるそれぞれの生活のしづらさの理解を深める。特に、介護を必要とする前の生活や人生があること、一人ひとり意向や生き方などの個別性を理解することが重要であるため、尊厳を守る介護、自立支援、ICFの考え方に基づいた介護の考え方について学ぶ。 ・歯科衛生士としての専門性を発揮するため、地域包括ケアや多職種連携とチームケアなどについて実践できるように学ぶ。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	日本の介護について①	
2	日本の介護について②	
3	加齢による変化・介護予防について	
4	加齢による変化・介護予防について	
5	認知症について	
6	介護における多職種連携について(地域包括ケアシステム)	
7	地域包括ケアシステム・人生の最終段階におけるケアについて	
8	まとめ	
9		
10		

教 授 要 綱

令和7年 3 月20 日記入

科目	歯科診療補助総論(介護概論)	講師名	倉光聡美
実施時期	3学年後期	実務経験	医療法人勤務6年 医療・福祉コンサルティング7年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	介護概論・基本介護技術 千葉 典子 共栄出版	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・社会情勢や歯科医療の高度化に伴い、歯科衛生士としての専門性がより求められるようになってきている。そのため、歯科診療補助に必要な基本的な知識や技術について、再確認を行う。 ・歯科衛生士の役割を理解し、円滑なチーム医療が行えることを目標とする。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	介護と医療の連携について～歯科衛生士の立場から考える～	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月20日記入

科目	社会福祉	講師名	倉光聡美
実施時期	3学年後期	実務経験	医療法人勤務6年 医療・福祉コンサルティング7年
単位数	16時間(8回)	授業形態	講義
教科書	最新 歯科衛生士と法律・制度 第2版 石井 拓雄 他 医歯薬出版会	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・高齢化の進行にともない、保健医療と福祉の連携の必要性はより重要とされている。歯科衛生士として、保健医療に携わる専門職として、実務に従事するために必要な社会保障制度や社会福祉の基本理念を学ぶ。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	社会保障について (社会福祉、社会保障の歴史的変遷など)	
2	医療保険制度について	
3	年金保険・雇用保険・労災保険制度について	
4	障がい者(児童)の福祉制度について	
5	児童福祉制度・生活保護制度について	
6	介護保険制度について	
7	介護保険制度・高齢者の福祉制度について	
8	まとめ	
9		
10		

教 授 要 綱

令和7年 3 月20 日記入

科目	歯科診療補助総論（社会福祉学）	講師名	倉光聡美
実施時期	3学年後期	実務経験	医療法人勤務6年 医療・福祉コンサルティング7年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	最新 歯科衛生士と法律・制度 第2版 石井 拓雄 他 医歯薬出版会	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・歯科衛生士として必要な社会保障制度に関する知識の習得を目指す。 ・歯科衛生の実践場面で活かすため学んだ知識を再確認する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	社会福祉制度や社会保障について(まとめ)	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月17日記入

科目	小児歯科学	講師名	落合 聡
実施時期	2学年前期	実務経験	歯科医師経験39年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 小児歯科 第2版大嶋 隆 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	小児歯科の歯科診療を行う場合には、小児の発育とその異常、そして歯科疾患について熟知しておく必要がある。 小児歯科の概論および小児の正常な成長発育について学習し、その上で歯・歯列・咬合の異常、そして様々な歯科疾患についての知識を習得させる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	小児歯科診療の基礎知識 1. 小児歯科学概論	2. 心身の発育
2	小児歯科診療の基礎知識 3. 小児の生理的特徴	4. 顔面頭蓋の発育
3	小児歯科診療の基礎知識 5. 歯の発育とその異常	6. 歯列・咬合の発育と異常
4	小児歯科診療の基礎知識 7. 小児の歯科疾患	8. 小児虐待
5	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 1. 小児期の特徴と歯科的問題点	2. 小児歯科における患者との対応法
6	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 3. 小児歯科における診療体系	
7	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 4. 障害児の歯科治療	
8	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 5. う蝕予防	
9	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 6. 小児の口腔健康管理	
10	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 7. 歯科診療室と器材の管理	

教授要綱

令和7年3月17日記入

科目	歯科診療補助総論（小児歯科学）	講師名	落合 聡
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験39年
単位数	4時間（2回）	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 小児歯科 第2版大嶋 隆 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	卒業試験、模擬試験、既出国家試験の問題について解説を行い、学んだ知識を再確認させる。		

授業計画

回	授業進度予定（講義内容）
1	国家試験に向けて既出国家試験問題の解説と関連項目の学習
2	国家試験に向けて既出国家試験問題の解説と関連項目の学習
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	歯科放射線学	講師名	筑井朋子
実施時期	2学年前期	実務経験	歯科医師経験22年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	わかりやすい歯科放射線学 学研書院	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・放射線について正しく患者に説明できる。 ・口内法、パノラマ撮影について画像形成の原理を理解する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・1.放射線とエックス線 ・2.放射線の影響	スライド使用
2	・3.歯科用エックス線撮影装置 ・4.エックス線画像の形成	スライド使用
3	・5.撮影法(口外法)	スライド使用
4	・6.撮影法(口外法)	スライド使用
5	・9.正常なエックス線画像 ・10.病変の画像例	スライド使用
6	・7.フィルム処理 ・8.デジタルエックス線システム	スライド使用
7	・歯科放射線撮影実習(口内法写真現像、パノラマ撮影補助、フィルムマウント)1	実習
8	・歯科放射線撮影実習(口内法写真現像、パノラマ撮影補助、フィルムマウント)2	実習
9	・11.放射線の防護と管理 ・12.放射線治療	スライド使用
10	・まとめ	スライド使用

教授要綱

令和7年3月18日記入

科目	歯科放射線学	講師名	筑井朋子
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験22年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	わかりやすい歯科放射線学 学研書院	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士国家試験合格のための学力を習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	歯科衛生士国家試験問題集(放射線)	スライド使用
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	口腔外科学	講師名	佐々木 三奈
実施時期	2学年前期	実務経験	歯科医師経験10年
単位数	12時間(6回)	授業形態	講義
教科書	顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 山根 源之 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と全身疾患の病態と治療法について、必要な基本的知識を理解する。 ・口腔外科診療の実際と手術における歯科衛生士の役割や業務を身につける。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	口腔外科とは、先天異常と発育異常、口腔領域の損傷および機能障害
2	顎骨骨折、口腔粘膜の病変
3	炎症、嚢胞性疾患
4	腫瘍性病変、唾液性疾患、神経疾患
5	口腔外科診療の実際1 拔牙、消炎処置、嚢胞、腫瘍、歯根端切除、歯槽骨整形術、止血処置、縫合、術後の管理
6	口腔外科診療の実際2 拔牙、消炎処置、嚢胞、腫瘍、歯根端切除、歯槽骨整形術、止血処置、縫合、術後の管理
7	
8	
9	
10	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	口腔機能学 (口腔外科学)	講師名	佐々木 三奈
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験10年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 山根 源之 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国家試験にむけて、必要な知識を学び、応用力を身につける。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	過去の国家試験への対策および解説
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	歯科補綴学 (補綴1)	講師名	永留 初實
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験35年
単位数	10時間(5回)	授業形態	講義
教科書	咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 赤川安正 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科補綴処置におけるクラウン・ブリッジに関する基礎的知識および臨床的知識, また, 診療補助と患者に対する指導について理解する. 教育方法は教科書を使用しながらのパソコンによるスライドおよびプリントによる講義。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	補綴装置の種類とその構造 固定性補綴装置:クラウン
2	クラウン・ブリッジ治療の実際 1.クラウン治療の流れ
3	クラウン・ブリッジの治療に用いられる器材 1.切削・研磨用の器材 2.印象採得用の器材 3.咬合採得用の器材
4	補綴歯科治療における歯科技工 1.クラウンの製作 2.ブリッジの製作
5	補綴歯科臨床における歯科衛生士の役割(治療時の業務・患者指導) 1.クラウン・ブリッジ(生活歯)治療 2.クラウン・ブリッジ(失活歯)治療
6	
7	
8	
9	
10	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	歯科補綴学 (補綴1)	講師名	永留 初實
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験35年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 赤川安正 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	クラウン・ブリッジの基礎的知識および臨床的知識, また診療補助と患者に対する指導等について, 最終学年において総括的に理解する. 教育方法は教科書および各種試験問題をベースにパソコンによるスライドおよびプリントによる講義。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	クラウンの種類と適応(前歯部および臼歯部のクラウン)および構造と材料, 臨床術式と診療補助, 患者指導
2	ブリッジの種類と適応および構造と材料, 臨床術式と診療補助, 患者指導
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月17日記入

科目	歯科補綴学 (補綴2)	講師名	渡辺 崇文
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験11年
単位数	10時間(5回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第二版 赤川 安正 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・有床義歯治療について理解する ・有床義歯治療における歯科衛生士業務を理解する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	補綴歯科治療に関する基礎知識(全部床義歯の分類と構造)
2	補綴歯科治療に関する基礎知識(部分床義歯の分類と構造)
3	有床義歯治療の実際(全部床義歯) 補綴歯科治療に用いられる器材
4	有床義歯治療の実際(部分床義歯) 補綴歯科治療に用いられる器材
5	インプラント治療の実際 治療時の業務、患者指導
6	
7	
8	
9	
10	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	歯科診療補助総論 (補綴2国試対策)	講師名	渡辺 崇文
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験11年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第二版 赤川 安正 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	有床義歯治療における国家試験対策		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	全部床義歯治療全般(国試対策)
2	全部床義歯治療全般(国試対策)
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	口腔外科学 (麻酔学)	講師名	黒岩太助、田島暢崇
実施時期	2学年前期	実務経験	黒岩: 歯科医師経験21年 田島: 歯科医師経験23年
単位数	8時間(4回)	授業形態	講義
教科書	顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 山根 源之 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験(多肢選択式客観試験)及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士に必要な麻酔学、全身管理学、蘇生学を講義する。 講義は主にPCを使用するが、資料も適宜配布する。 講義が難解なものにならないよう配慮する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	備考
1	1.麻酔の目的と種類 全身状態評価、バイタルサイン、循環器のしくみ 2.歯科治療時の偶発症 全身的偶発症、局所的偶発症、対処方法	担当: 黒岩太助
2	3.全身麻酔術前診察、術前検査と術前管理、全身麻酔法の方法と薬剤、パルスオキシメーター、生体監視モニター 4.救急蘇生法心肺蘇生法、AED、気道異物除去	担当: 黒岩太助
3	5.局所麻酔 局所麻酔薬の種類、血管収縮薬の作用と種類、 表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔、局所麻酔に必要な解剖学、 使用器具の取り扱い方法	担当: 田島暢崇
4	6.精神鎮静法 適応症と禁忌症、使用薬剤、鎮静器の取り扱い法、 パルスオキシメータ、静脈鎮静偶発症の対処法	担当: 田島暢崇
5		
6		
7		
8		
9		
10		

教 授 要 綱

令和7年 3 月 日記入

科目	口腔機能学 (麻醉学)	講師名	黒岩太助
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験21年
単位数	2時間(1単位)	授業形態	講義
教科書	顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 山根 源之 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験(多肢選択式客観試験)及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国家試験にむけて、必要な知識を学び、応用力を身につける。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	過去の国家試験への対策および解説
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教 授 要 綱

令和7年 3 月3 日記入

科目	歯科矯正学	講師名	梶 田 邦 裕
実施時期	2学年前期	実務経験	歯科医師経験43年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正第2版 新井一仁 ほか 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科矯正学の知識を習得し、国家試験に合格することを目標とするのみならず、歯科矯正臨床補助にも熟達し、社会的にも有能な歯科衛生士を養成する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・歯科矯正概論	
2	・成長発育	
3	・咬合	
4	・検査と診断	
5	・矯正歯科治療における生体力学と生体反応	
6	・矯正歯科治療と装置	
7	・矯正歯科治療の実際 ・歯科矯正治療に伴うリスクとその対応	
8	・矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順	
9	・口腔筋機能療法(MFT)	
10	・矯正歯科治療における口腔衛生管理と指導 ・矯正歯科治療にかかわる歯科衛生の実践	

教授要綱

令和7年3月3日記入

科目	歯科診療補助総論 (歯科矯正学)	講師名	梶田 邦裕
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験43年
単位数	8時間(4回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正第2版 新井一仁 ほか 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科矯正学の知識を習得し、国家試験に合格することを目標とするのみならず、歯科矯正臨床補助にも熟達し、社会的にも有能な歯科衛生士を養成する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・矯正歯科治療における口腔衛生管理と指導 ・矯正歯科治療にかかわる歯科衛生の実践	
2	・矯正歯科治療時の診療補助	
3	・国試対策講義	
4	・国試対策講義	
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年3月 日記入

科目	老年者・障害者歯科学	講師名	久保田 智彦
実施時期	2学年前期	実務経験	歯科医師経験36年
単位数	10時間(5回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 障害者歯科 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・障害者の全身的及び口腔の特徴を知る。 ・適切な支援としての口腔ケアや口腔衛生指導について理解する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・障害者の現状 ・障害者歯科における歯科衛生士の役割と配慮	
2	・行動調整の方法 ・知的障害について ・歯科的対応	
3	・ダウン症候群、自閉症について ・歯科的対応	
4	・脳性麻痺、中途障害について ・歯科的対応	
5	・障害に合わせた歯科衛生指導の要点 ・口腔ケアの方法	
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	歯科診療補助総論 (老年者・障害者歯科学)	講師名	久保田 智彦
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験36年
単位数	2時間(1回))	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 障害者歯科 全国歯科衛生士教育協議会	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・地域における歯科衛生士の役割を理解する。 ・障害者の口腔健康管理について理解する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・障害者の健康管理 ・障害者施設における歯科衛生士の役割	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月21 日記入

科目	高齢者歯科学	講師名	大部一成
実施時期	2学年前期	実務経験	歯科医師経験40年
単位数	12時間(6回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	超高齢社会において歯科的な治療やケアを必要とする高齢者の特徴を理解し、それに合わせた関わり方について習得する		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	I 編 高齢者をとりまく社会と環境	
2	II 編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	
3	III 編 高齢者の状態の把握	
4	IV 編 口腔健康管理	
5	V 編 摂食嚥下リハビリテーション VI 編 高齢者に関わる医療と介護	
6	VII 編 高齢者歯科に関わる歯科衛生士の実践	
7		
8		
9		
10		

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	歯科診療補助総論(高齢者歯科学)	講師名	大部一成
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験40年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法			
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	高齢者の特徴を理解し、それに合わせた関わり方について復習する		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	要点を復習し、国家試験問題や定期試験の過去問を解きながらポイントを解説する。 ・高齢者の特徴	2年生の講義で使用した上記のテキストを持ってきておくこと。
2	要点を復習し、国家試験問題や定期試験の過去問を解きながらポイントを解説する。 ・高齢者の特徴に合わせた歯科的対応	
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月21日記入

科目	摂食嚥下機能療法学	講師名	大部 一成
実施時期	3学年前期	実務経験	歯科医師経験40年
単位数	16時間(8回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション(第2版) 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験に加えて8回目の相互実習レポートを考慮して成績を評価する。なお、相互実習は対面実習が可能な場合に行う。		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・摂食嚥下障害の理解に必要な基本的知識と摂食嚥下障害に対する取り組み方(リハビリテーション)の実践までを講義する。 ・講義はPowerPointスライドを中心に行う。参考資料として講義スライドをまとめたものをプリントにして配布する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	第1章 歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション 第2章 リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション	
2	第3章 摂食嚥下障害者への口腔管理と制度の理解 第4章 摂食嚥下機能のメカニズム 第5章 咬合および咀嚼機能の管理と評価	
3	第6章 栄養管理	
4	第7章 リスクマネジメント 第8章 病態別摂食嚥下障害	
5	第9章 摂食嚥下の評価 第10章 摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理	
6	第11章 摂食嚥下訓練	
7	第12章 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本	
8	<実習> 摂食嚥下リハビリテーション実習として以下の実習を行う。実習後にレポートの提出が必要。 ①アイスマッサージの相互実習 ②U字コップ作成実習 ③液状物にトロミをつける実習	凍らせた綿棒、紙コップ、割り箸などが必要。
9		
10		

教授要綱

令和7年3月21日記入

科目	歯科診療補助総論 (摂食嚥下機能療法)	講師名	大部 一成
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験40年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション(第2版) 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	- 摂食嚥下障害とリハビリテーションに関して要点を復習した後、過去問を解きながらポイントを解説する。 - 新型コロナの状況によっては講義をWebによって行う場合がある。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	備考
1	要点を復習し、国家試験問題や定期試験の過去問を解きながらポイントを解説する。(1)	前期の講義で使 用した上記の テキストを持 ってきておく こと
2	要点を復習し、国家試験問題や定期試験の過去問を解きながらポイントを解説する。(2)	前期の講義で使 用した上記の テキストを持 ってきておく こと
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	栄養学	講師名	床嶋 純子
実施時期	2学年前期	実務経験	管理栄養士業務39年
単位数	30 時間(15 回)	授業形態	講義
教科書	人体の構造と機能2 栄養と代謝 高橋 信博 他 医歯薬出版会社	参考図書	ビジュアル711食品成分表
評価方法	定期試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	1学年で学習した基礎知識を基に栄養指導が必要とされる患者に対し適切な食生活指導が実践できるように学習する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	食生活と食品総論	
2	食生活と健康	小テスト
3	望ましい食生活	
4	ライフステージ別の栄養と調理 成長期	
5	ライフステージ別の栄養と調理 成長期	
6	ライフステージ別の栄養と調理 成人期	
7	ライフステージ別の栄養と調理 成人期	小テスト
8	ライフステージ別の栄養と調理 生活習慣病と食事	
9	ライフステージ別の栄養と調理 高齢者	小テスト
10	ライフステージ別の栄養と調理 高齢者	
11	食べ物と健康	小テスト
12	食品の成分と分類 栄養成分表	
13	食事計画に用いる食品分類	小テスト
14	食べ物の特性	
15	まとめと確認テスト	

教授要綱

令和7年 3 月 31日記入

科目	歯科診療補助総論 (栄養学)	講師名	床嶋 純子
実施時期	3学年後期	実務経験	管理栄養士業務39年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	人体の構造と機能2 栄養と代謝 高橋 信博 他 医歯薬出版会	参考図書	ビジュアルワイド食品成分表
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国試に向けて理解を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	食生活と食品のまとめ。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年 3 月31 日記入

科目	栄養指導論	講師名	床嶋 純子
実施時期	1学年後期	実務経験	管理栄養士業務39年
単位数	30 時間(15 回)	授業形態	講義
教科書	人体の構造と機能3 栄養学 服部 浩子 他 医歯薬出版会社	参考図書	オールガイド 食品成分表
評価方法	定期試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	食生活の多様化に伴い、適切な食事の姿が失われつつある。また栄養素の過不足により、さまざまな疾病が生じる。本教科では食生活上の改善を必要とする対象者(歯科疾患患者)に対し、歯科衛生士として適切な食生活指導ができるように栄養指導に必要な基礎知識を学ぶ。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	1章 栄養学と歯科衛生士	食事調査
2	2章 栄養素の種類とはたらき ①糖質	プリント
3	2章 栄養素の種類とはたらき ②脂質	小テスト
4	2章 栄養素の種類とはたらき ③タンパク質	小テスト
5	2章 栄養素の種類とはたらき ④ビタミン	小テスト
6	2章 栄養素の種類とはたらき ⑤ミネラル	小テスト
7	2章 栄養素の種類とはたらき ⑥食物繊維 ⑦水	小テスト
8	3章 栄養素の消化・吸収 ①～⑤	
9	2章 栄養素の消化・吸収 ⑥栄養素別の消化・吸収	
10	3章 健康と栄養	
11	5章 食事と食品 ①～④	
12	5章 食事と食品 ⑤～⑥	
13	カードによる復習学習	
14	教科書のまとめ	
15	学期末試験対策	

教 授 要 綱

令和7年 3 月31 日記入

科目	歯科診療補助総論 (栄養指導論)	講師名	床嶋 純子
実施時期	3学年後期	実務経験	管理栄養士業務39年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	人体の構造と機能2 栄養と代謝 高橋 信博 他 医歯薬出版会	参考図書	ビジュアルワイド食品成分表
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国試に向けて理解を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	栄養の基礎問題の復習
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教 授 要 綱

令和7年 3 月19日記入

科目	歯科材料学	講師名	水 沼 恵 介
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験22年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯科材料 末瀬一彦 他 医歯薬出版会社	参考図書	保存修復・歯内療法
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科材料の性質、用途、標準的な取り扱いなどの基本的な知識を習得させる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・歯科材料と歯科衛生士 ・歯科材料の基礎知識	
2	・歯面研磨材 ・小窩裂溝充填材 ・主な口腔清掃用具	
3	・印象材の種類と用途 ・印象材の組成と特徴 ・印象材の一般的性質	
4	・石膏の種類と用途 ・石膏の取り扱い ・石膏の一般的性質	
5	・合着材の種類と用途 ・接着性レジンセメントの種類と用途 ・合着材・接着材の一般的性質	
6	・成形修復材の種類と用途 ・成形修復材の組成と特徴	
7	・仮封材 ・暫間修復材と仮着用セメント	
8	・ワックス ・金属 ・セラミックス	
9	・小児歯科にかかわる材料 ・歯科保存にかかわる材料 ・歯科矯正にかかわる材料 ・歯科補綴にかかわる材料	
10	・全体の総復習	

教授要綱

令和7年 3 月 19日記入

科目	歯科診療補助総論 (歯科材料学)	講師名	水 沼 恵 介
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験22年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本口腔生理学 山田好秋 他 医歯薬出版会社	参考図書	歯科診療補助・ 国家試験問題集
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	・総復習と国家試験対策 ・内容の変化に対する修正		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・歯科材料の総復習(教科書) ・国家試験の解説と内容の追加	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月11 日記入

科目	歯科技工学	講師名	中島寛明
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験18年
単位数	16時間(8 回)	授業形態	講義
教科書	咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 赤川安正 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科補綴学全般と歯科技工との関わりを学び、歯科衛生士業に生かせるようにする。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	歯科技工と歯科補綴治療、歯科衛生士との関わり 咬合器 基準平面について	
2	歯科技工と歯科補綴治療、歯科衛生士との関わり 咬合器 基準平面について	
3	歯科技工と歯科補綴治療(義歯治療)	
4	歯科技工と歯科補綴治療(義歯治療)	
5	歯科技工と歯科補綴治療(クラウンブリッジ・インプラント)	
6	歯科技工と歯科補綴治療(クラウンブリッジ・インプラント)	
7	歯科技工と歯科補綴治療(CAD/CAMシステムについて)	
8	歯科技工と歯科補綴治療 まとめ	
9		
10		

教授要綱

令和7年 3 月 31日記入

科目	歯科臨床概論	講師名	小坪 義博
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験44年
単位数	20時間(10単位)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 松井 恭平 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科医療を行うにあたり、歯科患者への対応法および歯科疾患の内容と治療法について理解を深め、歯科医療の全体像を把握させる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	I 編 1章 歯科診療とは 1、歯科臨床の場 2、1) 歯科診療所 3/2) 病院 3/3) 居宅 3/4) 施設 3/5) その他 3、歯科診療の対象者	
2	2章 歯科診療所 1、歯科診療所のスタッフ 1) 歯科医師 6/2) 歯科衛生士 6/3) 歯科技工士 7/4) 歯科助手 2、歯科診療所の紹介 1) 患者のためのスペース 7/2) スタッフのためのスペース 3、歯科診療所における安全管理 1) 医療安全 11/2) 危険と隣合わせの医療 11/3) 感染防止 11/4) 廃棄物の管理 12/5) インフォームド・コンセント (説明と同意)	
3	3章 歯科診療所における業務 1、歯科診療所全体に係る業務 2、歯科診療所における歯科診療と歯科衛生業務 3、歯科診療所の1日	
4	II 編 歯科診療の流れ 1章 ライフステージと歯科診療	
5	2章 歯科診療で行うことー主な診療の流れ 1、診査・検査・前処置 1、バイタルサインの確認 22/2、画像検査 24/3 歯周組織の検査 26/4 痛みのコントロール 2、小児歯科 1、小児歯科とは 32/2 先天異常への対応 34/3 う蝕予防処置 36/1小窩裂溝填塞 36/2 フッ化物歯面塗布	
6	3、歯科矯正 1、不正咬合と矯正医療 40/2 矯正歯科治療の概要 4、口腔外科 1、口腔外科とは 44/2外傷の治療 46/3 抜歯 48①普通抜歯 48/②知歯の抜歯 50 /3 口腔粘膜疾患の処置	
7	5、歯科保存 1、歯科保存とは 54/2 象牙質知覚過敏症 55/3歯冠部う蝕 56/4 根面う蝕 58/5 歯内療法 60/6歯のホワイトニング	
8	6、歯周治療 1、歯周治療とは 64/2 歯周病と全身疾患 65/3歯周基本治療(TBI, SRP) 66/4歯周外科治療 68/5 メインテナンス	
9	7、歯科補綴 1、歯科補綴とは 72/2 義歯の作成 74 ①クラウンブリッジ 74/②有床義歯	
10	8、障害者歯科・高齢者歯科 1、障害者歯科、高齢者歯科とは 82/2摂食嚥下障害への対応 86/3 全身疾患への対応	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	口腔機能学（歯科臨床概論）	講師名	小坪 義博
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験44年
単位数	4時間(2単位)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 松井 恭平 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科臨床概論の履修内容について再確認し、国家試験問題を参考に理解を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	国家試験レベルの問題に習熟する。
2	国家試験レベルの問題に習熟する。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	解剖学	講師名	児玉 淳
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科医師経験36年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	1.最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・生理学 2.最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 井出吉信 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	人体の構造と機能を理解し、歯科医療に携わる歯科衛生士としての基礎学力をつける事を目標とする。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	解剖学総論 解剖の種類、人体の構成、人体の区分、解剖学基本用語、方向用語	(人体の構造と機能1:P1-8,P-46-63)
2	骨学総論 骨の生理学的作用、骨の分類、構造、発生・成長、結合	
3	骨学各論 全身骨格 頭・頸・体幹・上肢・下肢に存在する骨	(人体の構造と機能1:P1-8,P-46-63) (歯・口腔の構造と機能P18-34)
4	骨学各論 全身骨格 頭・頸・体幹・上肢・下肢に存在する骨	(人体の構造と機能1:P1-8,P-46-63) (歯・口腔の構造と機能P18-34)
5	筋学総論 筋の構造、用語、起始停止、支配神経、筋の機能(作用) 筋学各論 頭、頸、体幹、上肢、下肢に存在する筋	(人体の構造と機能1:P58-74) (歯・口腔の構造と機能P34-38)
6	筋学各論 頭、頸、体幹、上肢、下肢に存在する筋	(人体の構造と機能1:P58-74) (歯・口腔の構造と機能P34-38)
7	筋学各論 頭、頸、体幹、上肢、下肢に存在する筋	(人体の構造と機能1:P58-74) (歯・口腔の構造と機能P34-38)
8	脈管学総論・各論 体(大)循環、肺(小)循環 脈管系の概要 血管系の構造と機能、心臓、全身の動脈・静脈、リンパ管	(人体の構造と機能1:P109-140, P123-126)
9	脈管学総論・各論 脈管系の概要 血管系の構造と機能、心臓、全身の動脈・静脈、リンパ管	(人体の構造と機能1:P109-140, P123-126) (歯・口腔の構造と機能P45-56)
10	脈管学総論・各論 脈管系の概要 血管系の構造と機能、心臓、全身の動脈・静脈、リンパ管	(人体の構造と機能1:P109-140, P123-126) (歯・口腔の構造と機能P45-56)
11	神経学総論 神経系の構成、分類、機能、用語	(人体の構造と機能1:P179-212) (歯・口腔の構造と機能P49-61)
12	神経学各論 中枢神経系:脳、脊髄 末梢神経系:脳神経、脊髄神経、自律神経系	(人体の構造と機能1:P179-212) (歯・口腔の構造と機能P49-61)
13	神経学各論 末梢神経系:脳神経 (三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)	(人体の構造と機能1:P179-212) (歯・口腔の構造と機能P49-61)
14	内臓学総論 内臓の基本構造:中空性の臓器、実質性の臓器 内臓学各論 消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌器系	(人体の構造と機能1:P84-108,213-233,234-245,246-268) (歯・口腔の構造と機能P2-11,62-71,248-259)
15	内臓学各論 消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌器系	(人体の構造と機能1:P84-108,213-233,234-245,246-268) (歯・口腔の構造と機能P2-11,P62-71,P248-259)

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	口腔機能学 (解剖学)	講師名	児玉 淳
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験36年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・生理学 井出吉信 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	人体の構造並びに機能についての学習		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	国試過去問の演習と解説
2	国試過去問の演習と解説
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	薬理学	講師名	濱田法康
実施時期	1学年後期	実務経験	薬剤師48年 歯科医師経験31年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 王 宝禮 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	基礎的薬物の作用と使用方法の学習		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	総論 1)薬物の作用 2)薬物動態 3)薬物の適用法の種類と特徴 4)薬物の作用に影響を与える要因
2	総論 1)薬物の副作用、有害作用 2)医薬品を適用する際の注意 3)薬物の取り扱い 4)薬物と法律・薬物と医薬品
3	ビタミンとホルモン 1)ビタミンの種類と作用 2)ホルモンの種類と作用
4	末梢神経系と薬物 1)末梢神経系とは 2)自律神経作用薬
5	中枢神経系と薬物 1)中枢神経系とは 2)中枢神経に作用する薬物
6	循環器に作用する薬物・腎臓に作用する薬物 1)循環器に作用する薬物とは 2)呼吸器に作用する薬物とは
7	呼吸器に作用する薬物・消化器に作用する薬物 1)呼吸器に作用する薬物とは 2)消化器に作用する薬物とは
8	血液に作用する薬物・免疫薬物 1)血液に作用する薬物とは 2)免疫と薬物
9	悪性腫瘍・代謝性疾患に用いる薬物 1)悪性腫瘍と薬 2)代謝性疾患治療薬
10	炎症と薬 1)炎症のメカニズム 2)炎症と薬
11	痛みと薬 1)痛みのメカニズム 2)オピオイド系鎮痛薬 3)非オピオイド系鎮痛薬
12	局所麻酔薬 1)局所麻酔薬の作用機序と種類 2)化学構造と分類
13	抗感染生薬 1)感染症と薬 2)作用と副作用 3)種類
14	消毒薬・歯科にかかわる薬物 1)消毒薬の種類と作用 2)う蝕予防薬 3)歯内療法薬 4)歯周病治療薬
15	顎・口腔粘膜疾患と薬・漢方医学 1)口腔粘膜疾患に用いる薬物 2)顎関節症に用いる薬物 3)口腔乾燥症に用いる薬物 4)神経疾患に用いる薬物 5)漢方総論

教授要綱

令和7年3月日記入

科目	口腔機能学 (薬理学)	講師名	濱田法康
実施時期	3学年後期	実務経験	薬剤師48年 歯科医師経験31年
単位数	6時間(3回)	授業形態	講義
教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 王 宝禮 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	1年次内容の再確認と国試対策		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	国試過去問の演習と解説	
2	国試過去問の演習と解説	
3	国試過去問の演習と解説	
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	歯周病学	講師名	北嶋 禎治
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験27年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯周病学 申 基喆 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	- 臨床に応用できる「役に立つ」知識の習得と創造的発想の確立を目指す。 - 反復学習を通して、重点的知識に基づいた思考力を生み出す授業を実施する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	歯周治療の基礎知識1:正常な歯周組織の構造について	視聴覚教材使用
2	歯周治療の基礎知識2:正常な歯周組織の機能について	視聴覚教材使用・ 知識確認試験施行
3	歯周病の分類と原因1:歯肉炎、歯周炎の原因と病態について	視聴覚教材使用
4	歯周病の分類と原因2:歯周医学とインプラント周囲炎	視聴覚教材使用・ 知識確認試験施行
5	歯周治療の実際1:歯周治療の進め方と歯周病の検査	視聴覚教材使用
6	歯周治療の実際2:歯周基本治療について	視聴覚教材使用・ 知識確認試験施行
7	歯周治療の実際3:歯周外科治療について	視聴覚教材使用
8	歯周治療の実際4:口腔機能回復治療について	視聴覚教材使用・ 知識確認試験施行
9	歯周治療における歯科衛生士の業務1:歯周病診断の指導と補助	視聴覚教材使用
10	歯周治療における歯科衛生士の業務1:歯周病診断の指導と補助	視聴覚教材使用・ 知識確認試験施行

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	周術期歯科学	講師名	内田 有香
実施時期	2学年後期	実務経験	歯科医師経験1年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	5疾病の口腔ケア 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	周術期の口腔ケアについて学ぶ		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	周術期口腔機能管理①
2	周術期口腔機能管理②
3	癌と口腔ケア①
4	癌と口腔ケア②
5	脳卒中と口腔ケア①
6	脳卒中と口腔ケア②
7	糖尿病・精神疾患と口腔ケア①
8	糖尿病・精神疾患と口腔ケア②
9	まとめ①
10	まとめ②

教授要綱

令和7年3月6日記入

科目	臨床検査法	講師名	外園 栄作・塩津 弘倫 安田 洋子・木村 朋子
実施時期	2学年前期	実務経験	臨床検査技師歴25年・ 14年・26年・15年
単位数	24時間(12回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士教本 臨床検査 野村 武史 編著 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	出席および実習レポートと定期試験		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	臨床検査の検査法の意義と臨床検査データの考え方について、医療従事者として必要な知識を身につける。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	1章 臨床検査とは 1)臨床検査の倫理と安全、2)臨床検査はなぜ必要か 3)どんな検査があるか、4)検査成績の読み方	担当:外園
2	1章 臨床検査とは 3)どんな検査があるか、4)検査成績の読み方	担当:外園
3	2章 生理検査(生理機能検査) 1)体温検査、2)脈拍検査、3)血圧検査	担当:塩津
4	2章 生理検査(生理機能検査) 4)心機能検査、5)肺機能検査、6)筋電図検査、7)脳波検査	担当:塩津
5	3章 検体検査 1)血液を用いる検査 ・輸血検査(血液型検査、その他)	担当:安田
6	2)病理検査(細胞診・組織診)	担当:安田
7	3章 検体検査 1)血液を用いる検査 ・血液検査、血液凝固・線溶系検査	担当:木村
8	3章 検体検査 2)生化学検査、免疫・血清検査、感染症検査	担当:木村
9	4章 口腔領域の臨床検査 1)口臭検査 2)味覚検査 3)歯科金属アレルギーの検査 4)舌の検査 5)口腔粘膜の検査 6)唾液検査 7)歯周組織の検査 8)歯の検査 9)根管内細菌培養検査 5章 摂食・嚥下障害の検査法 ・摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト 2)摂食・嚥下障害の検査法	担当:外園
10	・尿を材料とする検査について(尿検査の意義) ・主な疾患・病態別検査値のとりえ方 ・総括	担当:外園
11	臨床検査実習(尿検査法、血糖値の検査)	担当:外園
12	臨床検査実習(血液型検査、顕微鏡検査)	担当:外園

教 授 要 綱

令和7年3月6日記入

科目	臨床検査法	講師名	外園 栄作
実施時期	3学年前期	実務経験	臨床検査技師歴25年・14年・26年・15年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士教本 臨床検査 野村 武史 編著 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	出席および実習レポートと定期試験		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国家試験出題基準に沿った復習		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	臨床検査についての重要ポイントのまとめ	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年 3 月28 日記入

科目	歯科診療補助実習	講師名	寺松順子
実施時期	1学年後期	実務経験	臨床経験年数 39 年
単位数	10時間(5回)	授業形態	講義、実習
教科書	最新 歯科診療補助論 合場 千佳子 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	レポート提出、小テスト及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	講義と演習を通し外科器具、歯科器具の名称および取り扱い方法や受け渡しを学習する。(国家試験の過去の出題された関連問題を取り入れる) 周術期のオーラルケアについてはプリントを使用し学習する。講義に関しては、プリントを記述式にし、講義終了後回収し採点する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	歯科衛生士による周術期口腔ケアの必要性と実際について	パワーポイントプリント 小テスト
2	外科器具の名称と歯科器具の受け渡し及び取り扱いについて	教科書 パワーポイント プリント外科器具
3	外科器具の名称と歯科器具の受け渡し及び取り扱いについて	教科書 パワーポイント プリント外科器具
4	外科・歯科器具の受け渡し及び取り扱いについての演習	基本器具及びスケ ラー・ 外科等の器材使用
5	外科・歯科器具の受け渡し及び取り扱いについての演習	基本器具及びスケ ラー・ 外科等の器材使用
6		
7		
8		
9		
10		

教 授 要 綱

令和7年 3 月17 日記入

科目	歯科診療補助実習	講師名	浪辺 陽子
実施時期	1学年後期	実務経験	臨床経験年数32年
単位数	10時間(5回)	授業形態	講義、実習
教科書		参考図書	なし
評価方法	レポート提出、小テスト及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	共同動作の意義と術者、補助者、患者の心理の理解できるように。全身疾患と口腔内の関わり、服用薬による副作用を理解した上で患者に関われるようになる。また、周術期口腔機能管理について次年度に向け理解を深められる足掛かりを作る		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	(講義)共同動作(定義)バキュームテクニック、基本操作、3wayシリンジテクニック
2	(実習)バキュームテクニック、基本操作、3wayシリンジテクニックをイメージトレーニングを行った後に実践する
3	(実習)バキュームテクニック、基本操作、3wayシリンジテクニックをイメージトレーニングを行った後に実践する
4	全身疾患と歯科の関わりについて、薬の副作用と口腔内の関与について、周術期について などの講義
5	全身疾患と歯科の関わりについて、薬の副作用と口腔内の関与について、周術期について などの講義
6	
7	
8	
9	
10	

教授要綱

令和7年 3 月18 日記入

科目	先端医療学	講師名	小坪 隆治
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験36年
単位数	12時間(6回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための臨床インプラント講座 山口幸子他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	インプラント治療は、大学でも開業医においても導入する医院が増加している。歯科衛生士においては、メンテナンスを中心に役割を担っている。そのため、歯科衛生士がインプラントについて理解を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	インプラント治療の流れと歯科衛生士の役割	インプラントの基本知識
2	術前のコンサルテーションと口腔内管理の考え方	診査・検査
3	治療計画の立案とインフォームドコンセント	インプラント手術前の歯科治療
4	インプラント手術、補綴	
5	インプラント病変への変化	メンテナンス
6	インプラント粘膜炎、周囲炎	
7		
8		
9		
10		

教 授 要 綱

令和7年 3 月18日記入

科目	歯科診療補助総論 (先端医療学)	講師名	小坪 隆治
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験36年
単位数	2時間(1回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための臨床インプラント講座 山口幸子他 医歯薬出版 会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	インプラント治療は、大学でも開業医においても導入する医院が増加している。歯科衛生士においては、メンテナンスを中心的に役割を担っている。そのため、歯科衛生士がインプラントについて理解を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	過去出題問題の要点 近年の傾向
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月 日記入

科目	先端医療学	講師名	山下良太
実施時期	3年学年後期	実務経験	歯科医師経験年数29年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための臨床インプラント講座 山口幸子他 医歯薬出版 会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科再生治療に関わる原理原則の考え方。再生治療に関わる生体材料学などの理解を深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	・歯科再生治療の原理原則について ・歯周病と再生治療について
2	・歯科再生治療の生体材料について ・歯科再生治療症例解説 ・歯周病と感染症について
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

教授要綱

令和7年3月日記入

科目	歯科診療補助総論（先端医療学）	講師名	山下良太
実施時期	3年学年後期	実務経験	歯科医師経験年数29年
単位数	2時間（1回）	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士のための臨床インプラント講座 山口幸子他 医歯薬出版 会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A（100～90）B（89～80）C（79～70）D（69～60）E（59点以下）		
授業方針 到達目標	過去の国家試験問題の解説を中心とした口腔組織に関する総復習		

授業計画

回	授業進度予定（講義内容）
1	・過去出題問題とその要点 ・最先端の歯科再生治療を、わかりやすい内容で解説していく。また、歯周病について、免疫学、細菌学をもとにした解説をし、学生がわかりやすい内容とする。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

教授要綱

令和7年3月4日記入

科目	歯内療法学	講師名	力丸 哲也
実施時期	1学年後期	実務経験	歯科医師経験33年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 千田 彰 他 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士国家試験出題基準に沿った部分にポイントを置いた上で、図説やスライドを用いて歯内療法のイメージを付けさせる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	＜歯の保存療法の種類＞ ・歯の保存療法と歯科保存学 ＜歯および歯周組織の検査＞ ・基礎知識と前準備 ・医療面接	
2	・自覚的、他覚的情報の収集 ＜歯内療法の概要＞ ・歯内療法学とは ・象牙質知覚過敏症 ・歯髄疾患	
3	＜歯内療法の概要＞ ・根尖性歯周疾患 ・歯内療法特有の検査と診断 ・抜髄法、感染根管治療の術式の概要	
4	＜歯髄保存療法＞ ・歯髄保存療法とは ・歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬 ・覆髄法	
5	・覆髄法 ・歯髄保存療法の診療の流れ ＜歯髄の除去療法＞ ・歯髄除去療法とは ・生活歯髄切断法	
6	・抜髄法 ＜根管治療、根管充填＞ ・根管治療の概要	
7	・根管治療の術式	
8	・根管充填	
9	・根未完成歯の根管処置 ＜外科的歯内療法＞ ・外科的歯内療法とは ・外科的歯内療法の術式	
10	＜歯内療法における安全対策＞ ＜歯内療法における歯科衛生士の役割＞	

教 授 要 綱

令和7年 3 月 4日記入

科目	(歯科診療補助総論) 歯内療法学	講師名	力丸哲也
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科医師経験33年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 寺下 正道 他 医歯薬出版会社	参考図書	国試過去問題編集 プリント
評価方法	卒業試験により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国家試験過去問題を用いた解説・まとめ		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	国家試験過去問題を編集したプリントを解かせ、解説	
2	解説	
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科衛生士概論	講師名	奥西千寿、溝田百香
実施時期	1学年前期	実務経験	奥西; 歯科衛生士教員歴 8年臨床歴10年 溝田; 新任
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生学総論 遠藤圭子ほか 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準: A(100~90) B(89~80) C(79~70) D(69~60) E(59点以下)		
授業方針 到達目標	保健・医療・福祉に関わることの意義をみつけ、専門職として必要なことは何か、対象とする人のニーズの把握の仕方、さらに歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解するとともに、倫理的な視点を持ち、かつ科学的な裏づけをもって仕事をするこの意味を考えることができるようになる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	1章 歯科衛生学とは	
2	2章 歯科衛生の歴史	
3	3章 歯科衛生活動のための理論	
4	4章 歯科衛生過程	
5	1章~4章 確認テスト	
6	5章 歯科衛生法	
7	6章 歯科衛生士と医療倫理	
8	7章 歯科衛生士の活動と組織	
9	8章 海外における歯科衛生士	
10	5章~8章 確認テスト	

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	歯科診療補助総論 (歯科衛生士概論)	講師名	奥西千寿
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科衛生士教員歴8年 臨床歴10年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士国試問題集 歯科衛生士国試問題研究会 医歯薬出版会社 クインテッセンス出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	要点のまとめと国家試験過去問題を中心に、解法のポイントの解説。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	過去問を解答する為 の資料配布
2	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	歯科衛生過程	講師名	奥西千寿・溝田百香
実施時期	3学年前期	実務経験	奥西; 歯科衛生士教員 歴8年臨床歴11年 溝田; 新任
単位数	20時間(10回)1単位	授業形態	講義
教科書	よくわかる歯科衛生過程 一般社団法人全国歯科衛生士教育連絡協議会編 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験(50%)ワーク(30%)及び出席状況(10%)、授業態度(10%)		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	1 歯科衛生過程を活用する意義を説明することができる。 2 歯科衛生過程の概要を説明できる。 3 歯科衛生過程のプロセスと構成要素を列挙できる。 4 クリティカルシンキングについて説明できる。 5 ヒューマンニーズ理論について説明できる。 6 DarbyとWalshのヒューマンニーズ概念モデルについて説明できる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	1章 歯科衛生過程の基礎 ・歯科衛生過程の概要 ・歯科衛生過程の構成 * スライド(資料)と教本に沿ってポイントを記入	
2	・書面化の意義とは ・POS理論の概要 * スライドと教本に沿ってポイントを記入	
3	2章 歯科衛生過程の進め方 ・書面化の導入問題提示、説明 情報収集と分析方法1 ・POS理論とその応用 ・模擬症例を用いSOAPを実施	
4	情報収集と分析方法1 ・POS理論とその応用 ・SOAP内容の再計画	
5	ヒューマンニーズ分類とクリティカルシンキング ・症例発表	
6	歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) ・グループワーク	
7	歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) ・発表	
8	歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 ・グループワーク	
9	歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 ・発表	
10	歯科衛生過程のまとめ	

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科保健指導論	講師名	奥西千寿・溝田百香・ 甲斐里美
実施時期	2学年前期	実務経験	奥西:歯科衛生士教員歴8年臨床歴11年 溝田:新任 甲斐:臨床歴29年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 全国歯科衛生士教育連絡協議会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験(80%)授業態度、レポート(10%)及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	健康と疾病の概念を理解し、歯と口腔の健康維持増進のため知識・技術・態度を習得する。 ・保健指導の定義と特性を理解する。 ・医療面接を理解し歯科衛生実践の動機付け面接ができる。 ・口腔衛生管理のための歯科衛生介入計画を立案する。 ・口腔保健と生活習慣の関係を理解し、問題点と改善に向けた指導ができる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	食生活指導のための基礎知識	
2	歯科衛生アセスメントとしての情報収集・情報処理 主観的情報の把握・医療面接	
3	保健行動支援のための基礎知識 歯科衛生アセスメントとしての情報収集・情報処理 主観的情報の把握・医療面接	
4	口腔機能の評価・分析のためのデータ (口腔衛生状態の指数・歯周疾患の指数・う蝕の指標)	
5	歯科衛生介入としての歯科保健指導 歯ブラシ・デンタルフロス・歯間ブラシ	
6	歯科衛生介入としての歯科保健指導 タフトブラシ・粘膜ブラシ・スポンジブラシ・舌ブラシ・義歯用ブラシ・口腔ケア用具	
7	歯科衛生介入としての歯科保健指導 歯磨剤・洗口剤・保湿剤	
8	口腔機能・摂食嚥下の仕組み ・口腔機能に関わる指導 ・口腔機能低下症 ・生活習慣の指導(NCDs) ・喫煙者に対する指導・ストレスマネジメント	
9	〈対象者別の歯科衛生介入〉 ライフステージに対応した歯科衛生介入(妊産婦)	
10	〈対象者別の歯科衛生介入〉 ライフステージに対応した歯科衛生介入(乳児)	
11	〈対象者別の歯科衛生介入〉 ライフステージに対応した歯科衛生介入(幼児期)	

12	〈対象者別の歯科衛生介入〉 ライフステージに対応した歯科衛生介入(学齢期)	
13	〈対象者別の歯科衛生介入〉 ライフステージに対応した歯科衛生介入(青年期・成人期)	
14	〈対象者別の歯科衛生介入〉 ライフステージに対応した歯科衛生介入(老年期) 配慮を要する者への歯科衛生介入(要介護高齢者)	
15	〈対象者別の歯科衛生介入〉 配慮を要する者への歯科衛生介入(障害児者・大規模災害被災者)	

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科保健指導実習	講師名	甲斐里美・師岡沙矢
実施時期	2学年前期	実務経験	甲斐：臨床歴29年 師岡：臨床歴10年
単位数	90時間(45回)	授業形態	実習
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 全国歯科衛生士教育連絡協議会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	発表(80%)実技テスト・レポート(10%)及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	1. 生涯を通じた歯科保健サービスを理解するため、各対象に応じた歯科的特徴、歯科的問題を列記できる。 2. 生涯を通じた歯科保健サービスにおいて行政が関わる具体策や実施のねらいを知る。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	V編 地域歯科保健活動における健康教育 P396～ 1章 地域歯科保健活動における健康教育 ①健康教育の概要 ②健康教育の進め方 ③健康教育の方法 ④健康教育の評価	
2	2章 地域歯科保健活動のフィールド ①保育所(園)・幼稚園 ②学校(小・中・高)	
3	③事業所 ④保健所・市町村保健センター ⑤地域・病院・施設	
4	・発生・朗読法の基礎知識 ・保育園、幼稚園指導計画の立て方＊プリント配布	
5	集団指導オリエンテーション ・保育園、幼稚園実習概要について ・指導原稿案、媒体作製について	
6	集団指導法Ⅰ ・指導原稿、媒体作製のための情報収集	
7	集団指導法Ⅱ ・各担当分野での検討指導 原稿作成① 媒体作製①	
8	集団指導法Ⅲ ・各担当分野での検討指導 原稿作成② 媒体作製②	
9	集団指導法Ⅳ 各担当分野での検討指導 原稿作成③ 媒体作製③	
10	集団指導法Ⅴ ・各担当分野での検討指導 原稿作成④ 媒体作製④	
11	集団指導法Ⅵ 各担当分野での検討指導 原稿作成⑤ 媒体作製⑤	
12	集団指導法Ⅶ ・各担当分野での検討指導 原稿作成⑥ 媒体作製⑥	
13	集団指導法Ⅷ ・リハーサル①	
14	集団指導法Ⅷ ・リハーサル②	
15	集団指導法Ⅷ ・リハーサル③	
16	集団指導法Ⅷ ・発表①	
17	集団指導法Ⅷ ・発表②	

18	集団指導法Ⅲ ・発表③	
19	集団指導法Ⅳ ・修正(シナリオ、媒体)	
20	集団指導法Ⅴ ・修正(シナリオ、媒体)	
21	集団指導法Ⅵ ・反省会 ①良かった点 ②疑問点 ③改善方法 など	
22	集団指導法Ⅶ ・反省会発表	
23	集団指導Ⅷ ・総評	
24	教本に基づく追加講義及び復習Ⅰ ①地域歯科保健の評価 ②地域歯科保健活動のフィールド ③学校における歯・口の健康づくりのねらいと内容	
25	教本に基づく追加講義及び復習Ⅱ ④発達段階に即した歯磨き指導の重点 ⑤事業所における定期健康診断と健康教育の例 ⑥地域支援事業における介護予防事業	
26	教本に基づく追加講義及び復習Ⅲ ⑦各ライフステージ別の特徴	
27	教本に基づく追加講義及び復習Ⅳ ⑧各ライフステージ別の特徴	
28	教本に基づく追加講義及び復習Ⅴ ⑨各ライフステージ別の歯科保健指導	
29	教本に基づく追加講義及び復習Ⅵ ⑩各ライフステージ別の歯科保健指導	
30	教本に基づく追加講義及び復習Ⅶ ⑪各ライフステージ別の栄養指導、食事摂取基準	
31	教本に基づく追加講義及び復習Ⅷ ⑫各ライフステージ別の栄養指導、食事摂取基準	
32	ポスター作製Ⅰ ①役割分担決め ②ポスター作製について	
33	ポスター作製Ⅱ ①情報収集 ②資料集め	
34	ポスター作製Ⅲ	
35	ポスター作製Ⅳ	
36	ポスター作製Ⅴ	
37	ポスター作製Ⅵ	
38	ポスター作製Ⅶ	
39	ポスター作製Ⅷ	
40	ポスター作製Ⅸ	
41	ポスター作製Ⅹ	
42	ポスター作製Ⅺ	
43	ポスター作製Ⅻ	
44	ポスター作製ⅩⅢ	
45	ポスター作製ⅩⅣ	

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科保健指導実習	講師名	溝田百香、権藤好弘
実施時期	3学年前後期	実務経験	溝田：新任 権藤：歯科医師経験45年
単位数	60時間(30回)	授業形態	実習/講義
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 全国歯科衛生士教育連絡協議会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	発表(80%)実技テスト・レポート(10%)及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	対象別に応じた歯科保健指導を理解し対応できるようになる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	対象別に応じた媒体を作成する(構成)	
2	対象別に応じた媒体を作成する	
3	対象別に応じた媒体を作成する	
4	対象別に応じた媒体を作成する	
5	ポスター発表 ①評価平均値 ②良かった点 ③疑問点 ④改善方法	
6	まとめ、修正 専任からの総評	
7	高齢者への歯科保健指導の実際と留意点について理解するとともに歯科衛生士の役割についても理解する	
8	摂食・嚥下時に必要な筋肉を強化する訓練(マッサージ)をすることで口腔内の変化を理解する(発音練習・顔面マッサージの体験)	
9	摂食・嚥下時に必要な筋肉を強化する訓練(マッサージ)をすることで口腔内の変化を理解する(発音練習・顔面マッサージの体験)	
10	摂食嚥下のまとめ	
11	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
12	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
13	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
14	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
15	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
16	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
17	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
18	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
19	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
20	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
21	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
22	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	

23	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
24	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
25	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
26	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
27	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
28	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
29	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
30	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	う蝕予防処置論	講師名	奥西千寿・溝田百香
実施時期	1学年後期	実務経験	奥西: 歯科衛生士教員歴8年臨床歴11年 溝田: 新任
単位数	15時間(8回)	授業形態	講義
教科書	最新 歯科予防処置論・歯科保健指導論 高阪利美 ほか 医歯薬出版会社 最新 歯科材料 最新 歯科診療補助論 第2版 歯科衛生士のための 齲蝕予防処置法	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準: A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	う蝕予防処置の意義、方法、手順などを正確に学び、専門家として薬物の性質、使用方法、注意点を理解し実践に役立てることができる。 う蝕予防のプロフェッショナルケアの知識、技術、態度を習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	う蝕予防処置の基礎 ・う蝕と生活習慣および全身疾患の関連性 ・う蝕予防処置の種類と安全性 ・予防方法	
2	ラバーダム防湿 ・ラバーダム防湿の目的・利点、欠点 ・使用器具の名称、用途、使用手順	
3	小窩裂溝填塞 ・小窩裂溝填塞の基礎知識と作用機序 ・小窩裂溝填塞剤の種類と特徴 ・小窩裂溝填塞の適応症と術式	
4	フッ化ジアンミン銀 ・フッ化ジアンミン銀の作用機序・使用目的 ・フッ化ジアンミン銀の適応症・禁忌症 ・フッ化ジアンミン銀の特徴・使用方法	
5	う蝕活動性試験 ・う蝕活動性試験の基礎知識 ・う蝕活動性試験の評価方法の種類と特徴 ・う蝕活動性試験の器材、方法、判定	
6	食品とう蝕誘発性 ・食品とう蝕の関連性 ・食品と歯科疾患の関連性 ・う蝕予防のための食品摂取方法	
7	フッ化物の応用① ・基礎知識と作用機序 ・フッ化物の安全性 ・フッ化物歯面塗布の種類と術式 ・塗布後の指導	
8	フッ化物の応用② ・フッ化物洗口の基礎知識 ・フッ化物洗口の種類と取扱いおよび方法 ・フッ化物配合歯磨剤種類と使用法	

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科診療補助総論（う蝕予防処置論）	講師名	奥西千寿・溝田百香
実施時期	3学年後期	実務経験	奥西：歯科衛生士教員歴8年臨床歴11年 溝田：新任
単位数	10時間（5回）	授業形態	講義
教科書	最新 歯科予防処置論・歯科保健指導論 高阪利美 ほか 医歯薬出版会社 医歯薬出版 歯科衛生士国家試験問題集 クインテッセンス歯科衛生士国試対策集	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A（100～90）B（89～80）C（79～70）D（69～60）E（59点以下）		
授業方針 到達目標	要点のまとめと国家試験過去問題を中心に、解法のポイントの解説。		

授業計画

回	授業進度予定（講義内容）	
1	国家試験要点のまとめ	
2	国家試験要点のまとめ	
3	国家試験過去問題を編集したプリントを解き、解説。	
4	国家試験過去問題を編集したプリントを解き、解説。	
5	国家試験過去問題を編集したプリントを解き、解説。	
6		
7		
8		

教 授 要 綱

令和7年3月31日記入

科目	う蝕予防処置実習	講師名	甲斐里美・師岡沙矢 吉田恭三郎
実施時期	1学年後期	実務経験	甲斐:臨床歴29年、師岡:臨床歴10年 吉田:歯科医師経験36年
単位数	60時間(30回)	授業形態	実習
教科書	最新 歯科予防処置論・歯科保健指導論 高阪利美 ほか 医歯薬出版会社 最新 歯科材料 最新 歯科診療補助論 第2版 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法	参考図書	なし
評価方法	実習態度及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	う蝕予防処置の意義、方法、手順などを正確に学び、専門家として薬物の性質、使用方法、注意点を理解し実践に役立てることができる。 う蝕予防のプロフェッショナルケアの知識、技術、態度を習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	ラバーダム防湿(ファントム実習)	
2	ラバーダム防湿・小窩裂溝填塞(ファントム実習)	
3	フッ化ジアンミン銀塗布 ・手指や皮膚、衣服などについての場合の対処方法	
4	フッ化ジアンミン銀塗布(ファントム実習)	
5	う蝕活動性試験 ・う蝕活動性試験の器材、方法、判定結果	
6	う蝕活動性試験 ・う蝕活動性試験の器材、方法、判定結果	
7	PCR(プラークコントロールレコード) ・歯ブラシ、補助具使用確認	
8	PCR(プラークコントロールレコード) ・歯ブラシ、補助具使用確認	
9	・フッ化物歯面塗布(ファントム実習) ・フッ化ナトリウム	
10	・フッ化物歯面塗布(ファントム実習) ・フッ化ナトリウム	
11	ラバーダム防湿(ファントム実習)	
12	ラバーダム防湿(ファントム実習)	
13	ラバーダム防湿・小窩裂溝填塞(ファントム実習)	
14	ラバーダム防湿・小窩裂溝填塞(ファントム実習)	
15	フッ化物歯面塗布(ファントム実習) ・フッ化ナトリウムゲル	
16	フッ化物歯面塗布(ファントム実習) ・フッ化ナトリウムゲル	
17	フッ化物歯面塗布(ファントム実習) ・トレー法	
18	フッ化物歯面塗布(ファントム実習) ・トレー法	
19	共同動作・ポジショニング・ライティング(ファントム実習)	

20	共同動作・ポジショニング・ライティング(ファントム実習)	
21	歯面研磨・フッ化物歯面塗布(ファントム実習)	
22	歯面研磨・フッ化物歯面塗布(ファントム実習)	
23	ラバーダム防湿【相互実習】	
24	ラバーダム防湿【相互実習】	
25	ラバーダム防湿・トレー法・洗口法【相互実習】	
26	ラバーダム防湿・トレー法・洗口法【相互実習】	
27	ラバーダム防湿・小窩裂溝填塞・洗口法【相互実習】	
28	ラバーダム防湿・小窩裂溝填塞・洗口法【相互実習】	
29	ラバーダム防湿・小窩裂溝填塞・洗口法【相互実習】	
30	ラバーダム防湿・小窩裂溝填塞・洗口法【相互実習】	

教授要綱

令和7年 3 月31日記入

科目	歯科診療補助論	講師名	坂井幸子
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科衛生士教員歴8年 臨床歴7年
単位数	20時間(10回)	授業形態	講義
教科書	歯科診療補助論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社 歯科材料 歯科機器	参考図書	なし
評価方法	定期試験、提出物及び授業態度、出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士の歯科診療補助業務について理解し、歯科臨床医学に相当する知識と技術を習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	歯科衛生士の業務	歯科用語についての理解
2	医療安全対策、緊急時対応、偶発事故	
3	歯科診療の補助について	衛生材料の用途(綿球・綿栓の作成)
4	医療安全と緊急時の救急対応について	
5	感染症と感染予防対策	
6	滅菌、消毒、洗浄	医療廃棄物
7	共同動作	診療ユニットの各部名称 バキューム操作(フォーハンデッドデンティストリー)
8	印象用材料について	
9	模型用材料について	
10	歯科臨床における歯科診療補助について	

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	歯科診療補助総論 （歯科診療補助論）	講師名	奥西千寿
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科衛生士教員歴8年 臨床歴11年
単位数	10時間(5回)	授業形態	講義
教科書	歯科診療補助論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社 歯科材料 歯科機器	参考図書	なし
評価方法	定期試験、提出物及び授業態度、出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	国家試験過去問題、模擬試験をもとに出題傾向および要点について理解し、歯科診療補助論の総合的な知識を習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	過去問題、模擬試験の出題傾向の多い項目の解説。	
2	臨床科目との関連について解説。	
3	臨床科目との関連について解説。	
4	臨床科目との関連について解説。	
5	感染症と感染予防対策	
6	滅菌、消毒、洗浄 医療廃棄物	
7	共同動作 診療ユニットの各部名称 バキューム操作(フォーハンデッドデンティストリー)	
8	印象用材料について	
9	模型用材料について	
10	歯科臨床における歯科診療補助について	

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	(歯科診療補助総論) 歯科診療補助論	講師名	奥西千寿
実施時期	3学年後期	実務経験	歯科衛生士教員歴8年 臨床歴11年
単位数	4時間(2回)	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士国試問題集 歯科衛生士国試問題研究会 医歯薬出版会社 クインテッセンス出版会社 歯科材料 歯科機器	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科診療補助論の履修内容について再確認し、国試問題を参考に理解をさらに深める。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	過去問を解答する為の資料配布
2	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科診療補助実習	講師名	奥西千寿・溝田百香・吉田恭三郎
実施時期	1学年後期	実務経験	奥西; 歯科衛生士教員歴8年臨床歴11年 溝田; 新任 吉田; 歯科医師経験36年
単位数	30時間(15回)	授業形態	実習
教科書	歯科診療補助論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社 歯科材料 歯科機器	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び提出物、授業態度、出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100~90)B(89~80)C(79~70)D(69~60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	感染対策および器具の滅菌・消毒を理解し、歯科診療で使用する材料や器具の取扱いを習得し共同動作を円滑に行うことができる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	実習時の正しい身だしなみ 感染予防対策実習(グローブ・マスク・エプロンの着脱実習)	
2	手指衛生(ブラックライトを用いた手指衛生実習) アクティブラーニング(グループワーク)	
3	診療室オリエンテーション 診療室 設備の名称、操作	
4	共同動作マニキン実習(ポジショニング・ライティング)ユニット操作等	
5	共同動作マニキン実習(ポジショニング・ライティング)ユニット操作等	
6	衛生材料作成(綿球・綿栓・コットンロール等)	
7	共同動作マニキン実習(フォーハンデッドデンティストリー) バキューム・スリーウェイシリンジ	
8	共同動作マニキン実習(フォーハンデッドデンティストリー) バキューム・スリーウェイシリンジ	
9	ファントム実習 ファントムの取り付け方 印象採得実習 (アルジネート印象材練和)	
10	ファントム実習 印象採得実習(印象の準備・片顎練和)	
11	ファントム実習 印象採得実習(印象の準備・片顎練和・トレーの盛り上げ→印象採得)	
12	アルジネート印象採得 実技テスト	
13	ファントム実習 印象採得(上顎全顎練和、トレーへの盛り上げ→印象まで)	
14	ファントム実習 印象採得実習(下顎全顎練和、トレーへの盛り上げ→印象まで)	
15	ファントム実習 印象採得から石膏注入	

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	歯科診療補助実習	講師名	甲斐里美・師岡沙矢・力丸哲也
実施時期	2学年前期後期	実務経験	甲斐:臨床歴29年、 師岡:臨床歴10年 力丸:大学教員歴33年
単位数	60時間(30回)	授業形態	実習
教科書	歯科診療補助総論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社 歯科材料 歯科機器	参考図書	なし
評価方法	実習態度及び提出物、授業態度、出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	模型作成のための材料(印象材、石膏等)について学び、研究用模型の作成(相互)を行う。また臨床で使用する材料について用途、取り扱いを理解する。チェアサイドで行う歯科診療補助について理解、実践する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	口腔内撮影について カメラの使い方 撮影方法	
2	模型用材料 実習 量が多い場合の印象練和 トレー試適、全額印象採得(下顎)	
3	模型用材料 実習 トレー試適、全額印象採得(上顎)	
4	合着・接着材・仮着用材料の種類と基本性質について/練和・取扱い	
5	口腔内撮影 ファントム実習 口角鉤の使い方 5枚法撮影	
6	口腔内撮影 ファントム実習 口角鉤の使い方 5枚法撮影	
7	相互実習(下顎全額)	
8	相互実習(下顎全額)	
9	相互実習 (上顎全額)	
10	相互実習 (上顎全額)	
11	ファントム実習(寒天+アルジネート印象材)2級窩洞	
12	ファントム実習(寒天+アルジネート印象材)2級窩洞	
13	模型用材料 相互実習 スタディモデルの作成	

14	模型用材料	相互実習	スタディモデルの作成	
15	模型用材料	相互実習	スタディモデルの作成	
16	模型用材料	相互実習	スタディモデルの作成	
17	口腔内撮影 □角鉤の使い方	相互実習 5枚法撮影		
18	口腔内撮影 □角鉤の使い方	相互実習 5枚法撮影		
19	各種合着・接着材・仮着用材料の練和、取扱い			
20	各種合着・接着材・仮着用材料の練和、取扱い			
21	歯内療法時の診療補助(1)麻酔抜髄／歯内療法時の診療補助(2)根管充填			
22	歯内療法時の診療補助(1)麻酔抜髄／歯内療法時の診療補助(2)根管充填			
23	保存修復時の診療補助(1)直接修復／隔壁・歯肉排除・歯間分離実習			
24	保存修復時の診療補助(1)直接修復／隔壁・歯肉排除・歯間分離実習			
25	共同動作 相互実習	口腔外科手術 治療準備、器具準備、受け渡し動作		
26	共同動作 相互実習	口腔外科手術 治療準備、器具準備、受け渡し動作		
27	ファントム実習 TEC作製			
28	ファントム実習 TEC作製			
29	歯周外科治療時の診療補助／歯周パックの取り扱い実習			
30	歯周外科治療時の診療補助／歯周パックの取り扱い実習			

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科診療補助実習	講師名	師岡沙矢・権藤好弘
実施時期	3学年後期	実務経験	師岡;臨床歴10年 権藤;歯科医師経験45年
単位数	60時間(30回)	授業形態	実習
教科書	歯科診療補助総論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社 歯科材料 歯科機器	参考図書	なし
評価方法	定期試験、提出物及び実習態度及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	近々の国家試験過去問題を中心に解法のポイントを解説する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	・歯科診療の補助 情報収集 モニター検査の結果読み取り	
2	・患者への対応 全身疾患、高齢者、妊産婦等の対応	
3	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
4	・消毒・滅菌・洗浄について	
5	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
6	主要歯科材料の種類、取扱い	
7	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
8	・ラバーダム防湿について 模型実習 試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
9	・印象用材料について 相互実習	
10	・印象用材料について 相互実習	
11	・印象用材料について 試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
12	・保存修復について 直接修復、関節修復	
13	試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
14	・歯内療法時の補助について	
15	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
16	・補綴治療時の補助について	

17	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
18	・エックス写真撮影時の補助について	
19	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
20	・矯正歯科治療について	
21	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
22	・小児、高齢者、障害者の歯科治療時の補助について	
23	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
24	口腔外科手術、小手術時の歯科治療時の補助について	
25	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
26	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
27	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
28	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
29	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
30	国家試験及び模擬試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯周予防処置論	講師名	坂井幸子
実施時期	1学年前期	実務経験	歯科衛生士教員歴8年臨床歴7年
単位数	15時間(8回)	授業形態	講義
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験、課題・レポート及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	1章 歯科予防処置論、歯科保健指導論の概要 ・歯科予防処置、歯科保健指導の必要性 ・歯科予防処置、歯科保健指導の定義 ・歯科衛生士法における歯科予防処置 ・健康	教科書・ノート
2	1章 口腔の基礎知識 ・口腔、口腔周囲の構造 ・歯周組織 ・歯冠と歯根の形態 ・口腔の機能	教科書・ノート 顎模型
3	2章 う蝕と歯周病の基礎知識 ・口腔内の付着物、沈着物	教科書・ノート
4	2章 う蝕と歯周病の基礎知識 ・歯周病	教科書・ノート
5	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ・患者からの情報収集 ・全身の健康状態の把握 ・認知機能の把握 ・生活環境と生活背景の把握 ・生活習慣の把握	教科書・ノート
6	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ・口腔の器質的問題の把握 ・口腔の機能的問題の把握	教科書・ノート
7	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 ・手用スクレーパー	教科書・ノート
8	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	教科書・ノート
9		
10		

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯周予防処置論	講師名	師岡沙矢
実施時期	2学年前期	実務経験	臨床歴10年
単位数	15時間(8回)	授業形態	講義
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	定期試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	スケーリング・ルートプレーニング:スケーラーの種類と使用目的を説明できる。 歯面清掃・歯面研磨:歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる、歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 ①スケーリング・ルートプレーニングとは 1 手用スケーラー 1)構成 2)基本設定	
2	3)スケーラーの種類と操作方法 ・キュレットスケーラー	
3	②シャープニング	
4	③パワー(機械的)スケーラー (音の領域・エアスケーラー・使用時の注意事項)	
5	超音波スケーラーの操作方法・臨床における注意事項	
6	超音波スケーラーの操作方法・使用後の滅菌、消毒、メンテナンス	
7	③歯面研磨(目的・種類・歯面研磨剤・使用器材と操作方法・臨床における注意事項・注意を要する症例)	
8	・歯面清掃器(エアポリッシャー・サブソニックブラシシステム)	
9		
10		

教授要綱

令和7年3月31日記入

科目	歯科診療補助総論（歯周予防処置論）	講師名	奥西千寿・甲斐里美
実施時期	3学年後期	実務経験	奥西：歯科衛生士教員歴8年 臨床歴11年 甲斐：臨床歴29年
単位数	4時間（2回）	授業形態	講義
教科書	歯科衛生士国試問題集 歯科衛生士国試問題研究会 医歯薬出版会社 クインテッセンス出版会社	参考図書	なし
評価方法	卒業試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	要点のまとめと国家試験過去問題を中心に、解法のポイントの解説。		

授業計画

回	授業進度予定（講義内容）	
1	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	過去問を解答する為の資料配布
2	国家試験過去問を編集したプリントを解かせ、解説する。	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	歯周予防処置実習	講師名	甲斐里美・溝田百香・吉田恭三郎
実施時期	1学年後期	実務経験	甲斐：臨床歴29年 溝田：新任 吉田：歯科医師経験36年
単位数	30時間(15回)	授業形態	講義
教科書	歯科予防処置論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	実習態度、課題・レポート、実技試験及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準：A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯科衛生士として歯周予防処置を実施するにあたり、基礎的操作と流れを実技、習得する。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (手用スケーラーによる相互実習) ・術前の器材準備・ポジション・マキシラアングル・ヘッドローテーション ・前腕回転運動・手根関節運動 等
2	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (手用スケーラーによるファントム実習) ・手用スケーラー(シッケル)実習(前歯)
3	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (手用スケーラーによるファントム実習) ・手用スケーラー(シッケル)実習(右側・左側)
4	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (プロービング・ファントム実習)
5	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (プロービング・ファントム実習)
6	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (手用スケーラーによる相互実習) ・手用スケーラー実習
7	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (手用スケーラーによる相互実習) ・手用スケーラー実習
8	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (プロービング・歯面清掃による相互実習)
9	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (プロービング・歯面清掃による相互実習)
10	総合実習(相互実習) (患者誘導・口腔内診査による相互実習)
11	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (超音波スケーラー・エアスケーラーによる相互実習)
12	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (超音波スケーラー・エアスケーラーによる相互実習)
13	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (患者誘導・歯式・プロービング・エアスケーラー一連の流れ)
14	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (患者誘導・歯式・プロービング・エアスケーラー一連の流れ)
15	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 (手用スケーラー実技実習)

教 授 要 綱

令和7年3月31日記入

科目	歯周予防処置実習	講師名	師岡沙矢、力丸哲也
実施時期	2学年前期後期	実務経験	師岡;臨床歴10年 力丸;大学教員歴33年
単位数	30時間(15回)	授業形態	演習
教科書	歯科予防処置論 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版会社	参考図書	なし
評価方法	実習態度、課題・レポート及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯・歯肉・口腔の検査ができる。 シックルタイプスケーラー・キュレットタイプスケーラーを操作できる。 歯面清掃・歯面研磨ができる。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)
1	Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング
2	Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 1)シャープニング
3	(1)シックル型スケーラーでの操作(顎模型上)(2)スケーリング時の姿勢 (3)ポジション、ミラーテクニック、探針操作(マネキン上)
4	Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エクスプローラー・シックル・キュレット操作
5	手用スケーラーによる相互実習 1)上下顎前歯部
6	2)上下顎臼歯部
7	機械的操作相互実習 1)エアスケーラー・超音波スケーラー
8	2)歯面研磨・歯面清掃(コントラ操作)
9	相互実習1 患者誘導/問診/歯式/プロービング/染め出し/TBI/スケーリング/歯面研磨/歯肉マッサージ
10	相互実習2 患者誘導/問診/歯式/プロービング/染め出し/TBI/スケーリング/歯面研磨/歯肉マッサージ
11	相互実習3 患者誘導/問診/歯式/プロービング/染め出し/TBI/スケーリング/歯面研磨/歯肉マッサージ
12	相互実習4 患者誘導/問診/歯式/プロービング/染め出し/TBI/スケーリング/歯面研磨/歯肉マッサージ
13	相互実習5 患者誘導/問診/歯式/プロービング/染め出し/TBI/スケーリング/歯面研磨/歯肉マッサージ
14	相互実習6 患者誘導/問診/歯式/プロービング/染め出し/TBI/スケーリング/歯面研磨/歯肉マッサージ
15	相互実習7 患者誘導/問診/歯式/プロービング/染め出し/TBI/スケーリング/歯面研磨/歯肉マッサージ

教 授 要 綱

令和7年 3 月31日記入

科目	歯周予防処置実習	講師名	奥西千寿、権藤好弘、力丸哲也
実施時期	3学年後期	実務経験	奥西:歯科衛生士教員歴8年 臨床歴10年 権藤:歯科医師経験45年 力丸:大学教員歴33年
単位数	30時間(15回) 1単位	授業形態	実習
教科書	歯科衛生士国試問題集 歯科衛生士国試問題研究会 医歯薬出版 会社	参考図書	なし
評価方法	実習態度及び出席状況により評価		
評価基準	定期試験の評価基準:A(100～90)B(89～80)C(79～70)D(69～60)E(59点以下)		
授業方針 到達目標	歯周予防処置実習の履修内容について再確認し、知識・技術の理解を深める。模擬試験にて今まで学んだ 内容の理解度を知る。		

授業計画

回	授業進度予定(講義内容)	
1	Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 ファークেশンプローブ操作/シクルスケーラー操作	
2	Ⅲ編 3章 ①スケーリング	
3	Ⅲ編 3章 ①シャープニング・PTC	
4	Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 上顎/下顎 PTC	
5	Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 プロービング操作～スケーリング・PTC	
6	Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 プロービング操作～スケーリング・PTC	
7	Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー	
8	Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアフロー操作	
9	Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアフロー操作	
10	Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアフロー操作	
11	Ⅲ編 3章 ⑤小窩裂溝填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝填塞法	
12	歯周予防処置論 模擬試験解説	
13	歯周予防処置論 模擬試験解説	
14	歯周予防処置論 模擬試験解説	
15	歯周予防処置論 模擬試験解説	